

令和6年度(2025) 就職先アンケート調査

集計結果報告書

2026年4月

浦山学園 富山福祉短期大学

富山福祉短期大学 卒業生就職先アンケート調査 集計結果報告書

目次

I. 調査の概要.....	2
II. 就職先アンケート調査 回答結果.....	3
1. 新入職員としての評価.....	3
2. 新入職員に対して最も重視するもの.....	10
3. 新入職員に対して足りないと感じていること入職前に身につけておいてほしいこと.....	16
4. 新入職員の専門知識・技術として不足しているもの.....	21
5. その他、本学の教育に対するご指摘、ご要望など.....	26
III. まとめ.....	29
IV. 学科ごとの考察.....	35
VI. 令和6年卒業生アンケートと令和6年就職先アンケート調査集計結果の比較.....	39
VII. 分析者の所感.....	41
VIII. 就職先アンケート調査表.....	43

I. 調査の概要

■調査目的

- ・ 社会のニーズに応えられる人材の育成と輩出を図り、今後の本学の教育サービスの充実と改善につなげる
- ・ 調査結果を踏まえた教育改革・改善

■調査対象:

令和6年度（2025年3月卒業）の卒業生 114名（81件）

社福 26件（28名分）

看護 26件（54名分）

幼児 21件（24名分）

観光 3件（3名分）

専攻 5件（5名分）

■調査方法:

調査対象者に郵送にてアンケート用紙を送付し、返信用封筒にて返送

■調査期間:

令和6年12月4日～令和7年1月16日

■回収結果:

送付数:114件、回収件数:94件（回収率 82.5%）

（回収件数：社福 24、看護 47、幼教 23、観光 0、専攻科 0）

II. 就職先アンケート調査 回答結果

学科

	回答数	%
社会福祉学科	24	25.5%
看護学科	47	50.0%
幼児教育学科	23	24.5%
国際観光学科	0	0.0%
専攻科	0	0.0%
全体	94	100.0%

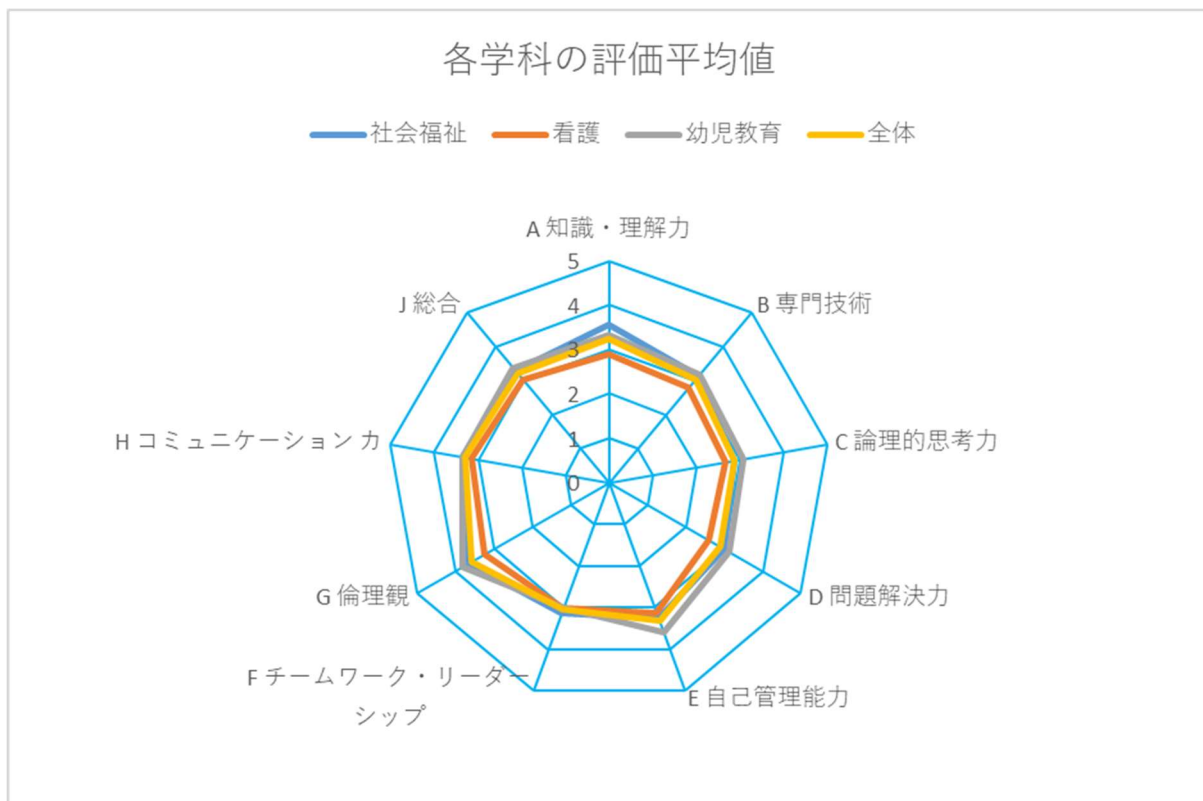
※社会福祉学科 24 件中 2 件、幼児教育科 23 件中 1 件、退職者などの理由により評価不可

1. 新入職員としての評価

II-1-1.◆全学科

各学科（社会福祉 22 名、看護 47 名、幼児教育 22 名）、3 学科（全体 91 名）の評価平均値は以下になる（国際観光科と専攻科は未回収のため記載省略）。総合評価は 3 学科とも概ね 3.02～3.36 に収まっており、幼児教育学科がやや高く、次いで社会福祉学科、看護学科の順となっている。いずれの学科も基礎的能力は安定しており、新人職員として一定の水準に達していることが確認できる。特に幼児教育学科では平均 3.00 以上で 3.00 未満の項目がないことも特徴的である。項目別では、最も高い評価を得ているのは G 倫理観（3.56）であり、次いで E 自己管理能力（3.33）、H コミュニケーション力（3.29）が続いている。一方で、C 論理的思考力、D 問題解決力は他項目と比較してやや低い水準にあり、思考の構造化や根拠に基づく判断力の強化が今後の課題として浮き彫りとなっている。総じて、倫理観と自己管理能力、コミュニケーション力という基盤的対人能力は高い水準にある一方で、論理的思考力をはじめとする応用的能力のさらなる向上が、今後の教育改善の重要なポイントであるといえる。

評価項目	社会福祉	看護	幼児教育	全体
A 知識・理解力	3.55	2.89	3.32	3.25
B 専門技術	3.14	2.79	3.18	3.04
C 論理的思考力	2.86	2.66	3.09	2.87
D 問題解決力	3.00	2.60	3.14	2.91
E 自己管理能力	3.27	3.13	3.59	3.33
F チームワーク・リーダーシップ	3.14	3.02	3.00	3.05
G 倫理観	3.64	3.23	3.82	3.56
H コミュニケーション力	3.36	3.15	3.36	3.29
J 総合	3.27	3.02	3.36	3.22



II-1-2.◆社会福祉学科（22名）

「5.優秀」から「1.劣る」まで幅広く分布する結果となっているが、全体としては「3.普通」および「4.良い」に集中しており、基礎的能力は概ね身につけていることがうかがえる。

G 倫理観では「5.優秀」～「3.普通」の評価が20名（90.9%）を占めており、特に高い水準で倫理観が育成されていることが確認できる。H コミュニケーション力においても「4.良い」が10名と最も多く、「3.普通」以上が18名（81.8%）となっており、対人援助を基盤とする社会福祉分野において重要な資質が十分に培われていることが分かる。また、E 自己管理能力およびF チームワーク・リーダーシップも「3.普通」以上が約7割を占め、安定した評価となっている。「5.優秀」から「1.劣る」まで幅広く分布する結果となっているが、全体としては「3.普通」および「4.良い」に集中しており、基礎的能力は概ね身につけていることがうかがえる。G 倫理観では「5.優秀」～「3.普通」の評価が20名（90.9%）を占めており、特に高い水準で倫理観が育成されていることが確認できる。H コミュニケーション力においても「4.良い」が10名と最も多く、「3.普通」以上が18名（81.8%）となっており、対人援助を基盤とする社会福祉分野において重要な資質が十分に培われていることが分かる。また、E 自己管理能力およびF チームワーク・リーダーシップも「3.普通」以上が約7割を占め、安定した評価となっている。

一方で、C 論理的思考力、D 問題解決力では「2.やや劣る」「1.劣る」の評価も一定数見られ、基礎力はあるものの応用的思考力のさらなる向上が求められる結果となっている。特に問題解決力は平均値が最も低く、実践的場面での対応力強化が課題であると考えられる。

社会福祉現場では、利用者の多様なニーズへの対応、関係機関との連携、緊急時の判断など、瞬時の状況分析と的確な意思決定が求められる。そのためには、

- ①状況把握力（課題の本質を捉える力）

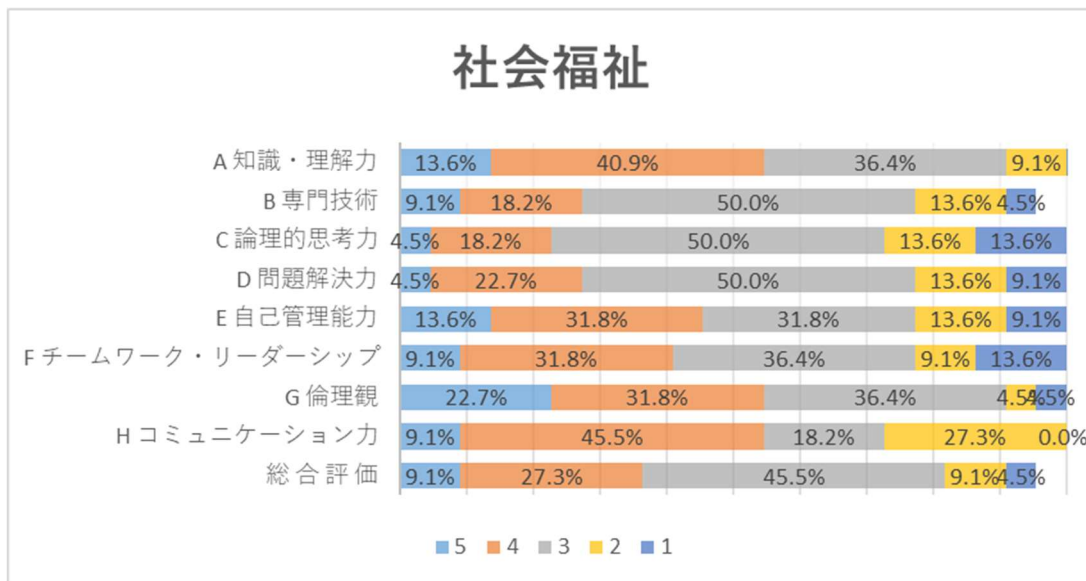
- ②分析力（要因を整理し解決策を導く力）
- ③意思決定力（適切な判断を行う力）
- ④実行力（計画を実践に移す力）

を体系的に養うことが重要である。

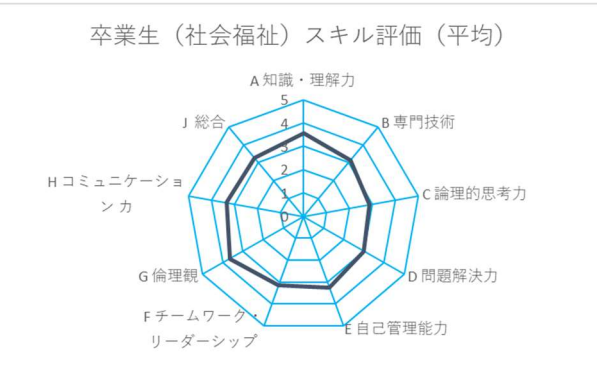
これらの能力向上には、インターンシップや実習を通じた実践経験の積み重ね、ケーススタディによる事例検討、グループディスカッションを活用した多角的視点の育成が有効である。また、レポート作成において「なぜその支援が適切か」を論理的に説明する訓練を重ねることで、思考の構造化と表現力の向上が期待できる。さらに、PDCA サイクルを意識し、実習後の振り返りを習慣化することで、経験を学習へと転換し、継続的な成長につなげることが可能である。

総じて、倫理観およびコミュニケーション力という社会福祉の基盤となる能力は高い水準にある。一方で、論理的思考力・問題解決力の強化に向けた体系的な指導を充実させることで、より実践力の高い人材育成が期待できる。

社会福祉学科(22名)						
	5	4	3	2	1	全体
A 知識・理解力	3	9	8	2	1	22
	13.6%	40.9%	36.4%	9.1%	4.5%	100.0%
B 専門技術	2	4	11	3	1	22
	9.1%	18.2%	50.0%	13.6%	4.5%	100.0%
C 論理的思考力	1	4	11	3	3	22
	4.5%	18.2%	50.0%	13.6%	13.6%	100.0%
D 問題解決力	1	5	11	3	2	22
	4.5%	22.7%	50.0%	13.6%	9.1%	100.0%
E 自己管理能力	3	7	7	3	2	22
	13.6%	31.8%	31.8%	13.6%	9.1%	100.0%
F チームワーク・リーダーシップ	2	7	8	2	3	22
	9.1%	31.8%	36.4%	9.1%	13.6%	100.0%
G 倫理観	5	7	8	1	1	22
	22.7%	31.8%	36.4%	4.5%	4.5%	100.0%
H コミュニケーション力	2	10	4	6	0	22
	9.1%	45.5%	18.2%	27.3%	0.0%	100.0%
総合評価	2	6	10	2	1	22
	9.1%	27.3%	45.5%	9.1%	4.5%	100.0%



評価項目	社会福祉(平均)
A 知識・理解力	3.55
B 専門技術	3.14
C 論理的思考力	2.86
D 問題解決力	3.00
E 自己管理能力	3.27
F チームワーク・リーダーシップ	3.14
G 倫理観	3.64
H コミュニケーション力	3.36
J 総合	3.27



II-1-3.◆看護学科（47名）

「5.優秀」から「1.劣る」まで分布しているものの、全体としては「3.普通」および「4.良い」に集中しており、基礎的能力は概ね安定して身につけている結果となっている。G 倫理観では「3.普通」以上の評価が大多数を占めており、看護職に不可欠な倫理意識が十分に育成されていることがうかがえる。特に「4.良い」の割合が比較的高く、判断の場面において適切な倫理観に基づいた行動が期待できる水準にあるといえる。また、H コミュニケーション力およびF チームワーク・リーダーシップにおいても「3.普通」以上が中心となっており、医療現場で求められる多職種連携や患者・家族対応に必要な対人能力は安定している。看護は個人技ではなくチーム医療であるため、これらの評価が高いことは大きな強みである。B 専門技術およびC 論理的思考力も「3.普通」を中心に分布しており、専門職として必要な基礎力は確実に習得されている。

一方で、D 問題解決力では「2.やや劣る」の評価が一定数見られ、他項目と比較するとやや低めの傾向がみられる。医療現場では突発的な容態変化や予測不能な事態への対応が日常的に求められるため、状況判断力と応用的思考力のさらなる強化が課題である。平均値を比較すると、最も高いのは倫理観、最も低いのは問題解決力という傾向がみられ、これは看護職養成における全国的傾向とも一致している。基礎的倫理観や対人能力は確実に育成されている一方で、応用的判断力をどのように高めるかが今後の鍵となる。患者ケア、医療チームとの連携、急変時対応など、看護現場では瞬時の状況分析と的確な意思決

定が求められる。そのためには

- ①状況把握力（症状・環境の変化を正確に捉える）
- ②分析力（情報を整理し原因を特定する）
- ③意思決定力（優先順位を判断し行動する）
- ④実行力（判断を速やかに実践へ移す）

に加え、チームワーク・コミュニケーション力（医療スタッフ間の連携を円滑にする力）

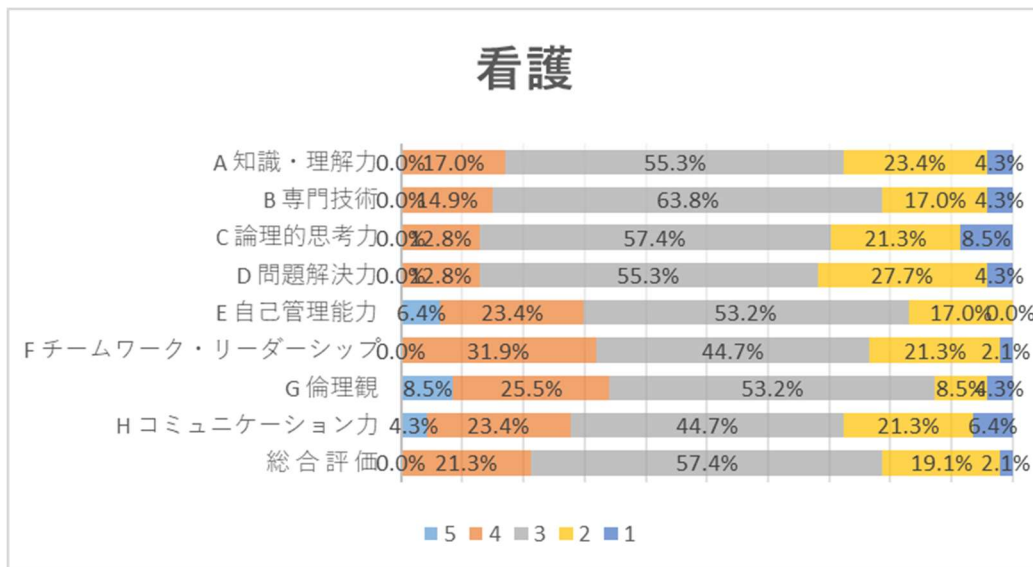
を統合的に高める必要がある。

問題解決力の強化には、実習やシミュレーション教育、ケーススタディを通して実践的判断場面を数多く経験することが有効である。また、クリティカルシンキング(批判的思考力)を養うことも重要である。例えば、「なぜこの処置が必要か」「他の選択肢はないか」「エビデンスは何か」と常に問いを立てる姿勢を持つことが、問題解決力の向上につながる。

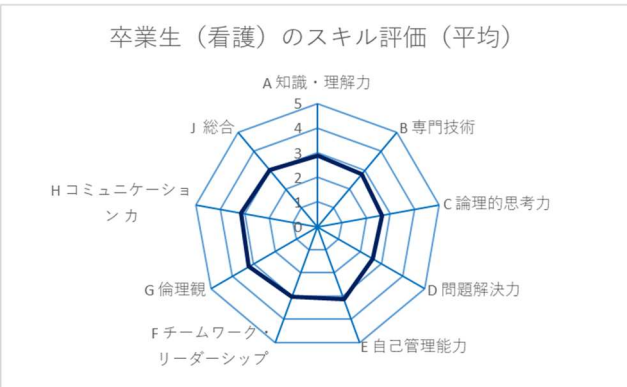
看護記録を作成する際にも、「この記録で他職種が適切に判断できるか」という視点を意識することで、論理的思考力と判断力の向上が期待できる。さらに、患者・家族との対話を通じて本質的な課題を把握する力を養うことも重要である。

総じて、本学科の学生は倫理観と対人能力を強みとし、看護職としての基盤は十分に形成されていると言える。今後は問題解決力および応用的思考力を強化する教育を充実させることで、より実践力の高い看護人材の育成が期待できる。

看護学科 (47名)						
	5	4	3	2	1	全体
A 知識・理解力	0	8	26	11	2	47
	0.0%	17.0%	55.3%	23.4%	4.3%	100.0%
B 専門技術	0	7	30	8	2	47
	0.0%	14.9%	63.8%	17.0%	4.3%	100.0%
C 論理的思考力	0	6	27	10	4	47
	0.0%	12.8%	57.4%	21.3%	8.5%	100.0%
D 問題解決力	0	6	26	13	2	47
	0.0%	12.8%	55.3%	27.7%	4.3%	100.0%
E 自己管理能力	3	11	25	8	0	47
	6.4%	23.4%	53.2%	17.0%	0.0%	100.0%
F チームワーク・リーダーシップ	0	15	21	10	1	47
	0.0%	31.9%	44.7%	21.3%	2.1%	100.0%
G 倫理観	4	12	25	4	2	47
	8.5%	25.5%	53.2%	8.5%	4.3%	100.0%
H コミュニケーション力	2	11	21	10	3	47
	4.3%	23.4%	44.7%	21.3%	6.4%	100.0%
総合評価	0	10	27	9	1	47
	0.0%	21.3%	57.4%	19.1%	2.1%	100.0%



評価項目	看護(平均)
A 知識・理解力	2.89
B 専門技術	2.79
C 論理的思考力	2.66
D 問題解決力	2.60
E 自己管理能力	3.13
F チームワーク・リーダーシップ	3.02
G 倫理観	3.23
H コミュニケーション力	3.15
J 総合	3.02



II-1-4. ◆幼児教育（22名）

「5.優秀」から「1.劣る」まで幅広く分布する結果となっているが、全体としては「4.やや優秀」および「3.普通」に集中しており、基礎的能力は概ね安定して身につけていると評価できる。総合評価では「4.やや優秀」～「3.普通」が大半を占めており、全体として高い水準にあることがうかがえる。項目別に見ると、B 専門技術では「4.やや優秀」～「3.普通」の評価が多数を占め、実践的スキルが十分に育成されていることが分かる。幼児教育現場で求められる指導技術や保育実践力は着実に身につけているといえる。また、H コミュニケーション力も「5.優秀」～「3.普通」が中心となっており、子ども・保護者・同僚との関係構築に必要な対人能力は高い水準にある。幼児教育は対人専門職であるため、この評価は学科の強みである。

一方で、C 論理的思考力および G 倫理観では「2.やや劣る」の評価が一定数見られ、思考力・判断力のさらなる向上が課題として挙げられる。倫理観については概ね高評価であるものの、倫理的判断を実践場面で適切に行う力を一層高める必要がある。論理的思考力は平均値がやや低く、保育計画の立案や保護者対応における説明力強化が求められる。保育・教育現場では、子どもの発達段階を踏まえた活動計画の作成、保護者への説明、園内での連携など、根拠に基づいた判断と説明が必要である。そのためには、

- ①状況把握力（子どもの発達や環境を正確に捉える）

- ②分析力（行動や背景要因を整理する）
- ③倫理的判断力（子どもの最善の利益を基準に考える）
- ④説明力（保護者や同僚に分かりやすく伝える）

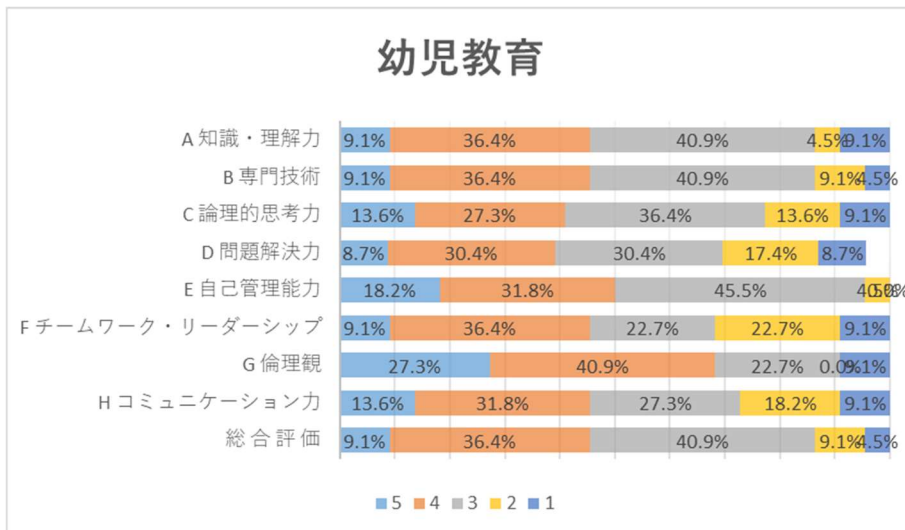
を総合的に養うことが重要である。

また、専門技術の向上については教員や現場の保育士とディスカッションすることで、多角的視点が育まれる。論理的思考力の向上には、保育計画や実習記録を単なる報告に終わらせず、「なぜこの活動を設定したのか」「子どもの発達にどのような効果があるのか」を明確に記述する訓練が有効である。ケーススタディを文章化し、自分の考えを整理することや、学生同士の議論を通して多様な視点に触れることも有効である。さらに、保護者対応のロールプレイを取り入れ、根拠を持って説明する練習を重ねることにより、実践な論理的思考力が身につくと考えられる。その際には最新の幼児教育理論や発達心理学を学び続け、知識をアップデートする姿勢も重要である。

加えて、幼児教育現場では担任一人で完結する業務は少なく、クラス運営・行事準備・安全管理・特別支援への対応など、日常的に職員間の連携が求められる。そのため、チームワーク力(3.00)の強化は今後の重要な育成ポイントである。具体的には、報告・連絡・相談の質を高める、役割分担の中で自分の担当を確実に遂行する、困りごとを抱え込まず早期に共有する、といった行動が現場適応力に直結する。学生の段階では、グループワークや共同製作、模擬保育の準備・実施の場面で、リーダー／サブリーダー／記録係など役割を意図的に経験させ、振り返りで「連携がうまくいった要因・難しかった要因」を言語化することが効果的である。

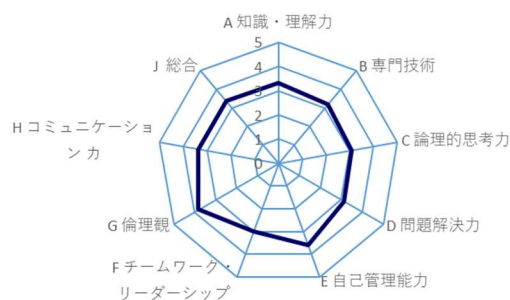
総じて、幼児教育学科の学生は倫理観と対人能力を強みに、現場で求められる基盤は概ね形成されている。一方で、論理的思考力の底上げと、職員間連携を支えるチームワーク力を体系的に育成することで、より実践力の高い幼児教育人材の育成につながると考えられる。

幼児教育学科（22名）						
	5	4	3	2	1	全体
A 知識・理解力	2	8	9	1	2	22
	9.1%	36.4%	40.9%	4.5%	9.1%	100.0%
B 専門技術	2	8	9	2	1	22
	9.1%	36.4%	40.9%	9.1%	4.5%	100.0%
C 論理的思考力	3	6	8	3	2	22
	13.6%	27.3%	36.4%	13.6%	9.1%	100.0%
D 問題解決力	2	7	7	4	2	22
	8.7%	30.4%	30.4%	17.4%	8.7%	95.7%
E 自己管理能力	4	7	10	1	0	22
	18.2%	31.8%	45.5%	4.5%	0.0%	100.0%
F チームワーク・リーダーシップ	2	8	5	5	2	22
	9.1%	36.4%	22.7%	22.7%	9.1%	100.0%
G 倫理観	6	9	5	0	2	22
	27.3%	40.9%	22.7%	0.0%	9.1%	100.0%
H コミュニケーション力	3	7	6	4	2	22
	13.6%	31.8%	27.3%	18.2%	9.1%	100.0%
総合評価	2	8	9	2	1	22
	9.1%	36.4%	40.9%	9.1%	4.5%	100.0%



評価項目	幼児教育(平均)
A 知識・理解力	3.32
B 専門技術	3.18
C 論理的思考力	3.09
D 問題解決力	3.14
E 自己管理能力	3.59
F チームワーク・リーダーシップ	3.00
G 倫理観	3.82
H コミュニケーション力	3.36
J 総合	3.36

卒業生（幼児教育）のスキル評価（平均）



2. 新入職員に対して最も重視するもの

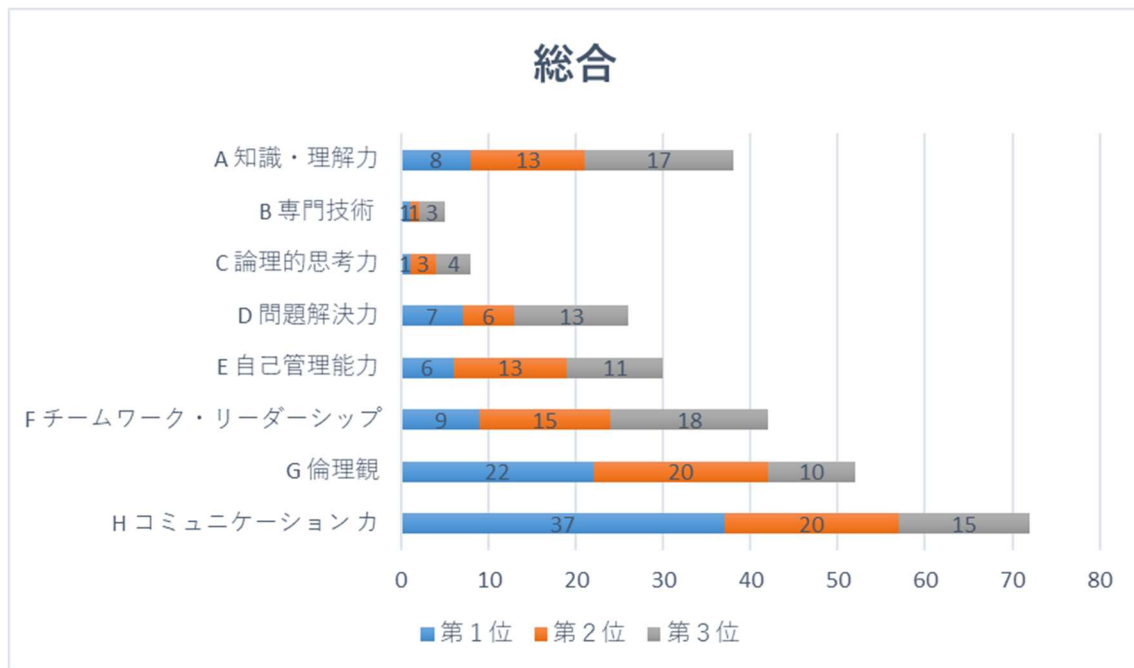
II-2-1. ◆総合

新入職員に対して求められているスキル

実際の評価（平均）

総合	第1位	第2位	第3位	合計	総合(評価)
A 知識・理解力	8	13	17	38	3.25
B 専門技術	1	1	3	5	3.04
C 論理的思考力	1	3	4	8	2.87
D 問題解決力	7	6	13	26	2.91
E 自己管理能力	6	13	11	30	3.33
F チームワーク・リーダーシップ	9	15	18	42	3.05
G 倫理観	22	20	10	52	3.56
H コミュニケーション力	37	20	15	72	3.29

1位
2位
3位



総合で求められるスキルは、1位：H コミュニケーション力（合計 72）、2位：G 倫理観（合計 52）、3位：F チームワーク・リーダーシップ（合計 42）の順で、新入職員に対して重視する項目という結果となった。次いで、A 知識・理解力、E 自己管理能力が続いており、対人対応力と専門職としての姿勢、協働力が特に重視されていることが分かる。

一方、全卒業生の実際の評価平均では、最も高い項目は G 倫理観（3.56）であり、次いで F チームワーク・リーダーシップ（3.33）、H コミュニケーション力（3.29）が続いている。求められるスキルの上位3項目（コミュニケーション力・倫理観・チームワーク）が、卒業生評価でも上位に位置していることから、就職先が新入職員に求めるスキルと本学卒業生の評価（平均）は概ね一致しているといえる。ただし、最重要視されているコミュニケーション力は平均 3.29 と安定しているものの、倫理観（3.56）ほど突出して高い水準ではないため、現場ニーズの強さを踏まえると、今後さらに質を高めていく余地がある。また、チームワーク・リーダーシップは 42 票と一定の重視が示されている一方、評価平均は 3.03 である。多職種連携や組織内での協働が前提となる福祉・看護・幼児教育の各現場では、個人の専門性だけでなく、周囲と連携しながら主体的に行動できる力が重視されている。卒業生の評価においても一定の水準は確保されているものの、現場の期待の高さを踏まえると、さらなる向上が望まれる領域である。今後は、役割分担を伴う実践型演習やリーダー経験の機会を意図的に設けるなど、協働力を実践的に高める教育の強化が重要であるといえる。

総じて、現場が求める能力と卒業生の強みは大枠で整合しており、教育成果は一定程度現場ニーズに
 応えていると評価できる。次項では、学科別に各スキルの特徴と課題をさらに詳細に分析していく。

II-2-2.◆社会福祉学科

新入職員に対して求められているスキル

社会福祉学科	第1位	第2位	第3位	合計
A 知識・理解力	2	1	5	8
B 専門技術	0	1	0	1
C 論理的思考力	1	0	1	2
D 問題解決力	0	1	2	3
E 自己管理能力	1	4	3	8
F チームワーク・リーダーシップ	2	5	8	15
G 倫理観	7	4	0	11
H コミュニケーション力	9	6	3	18

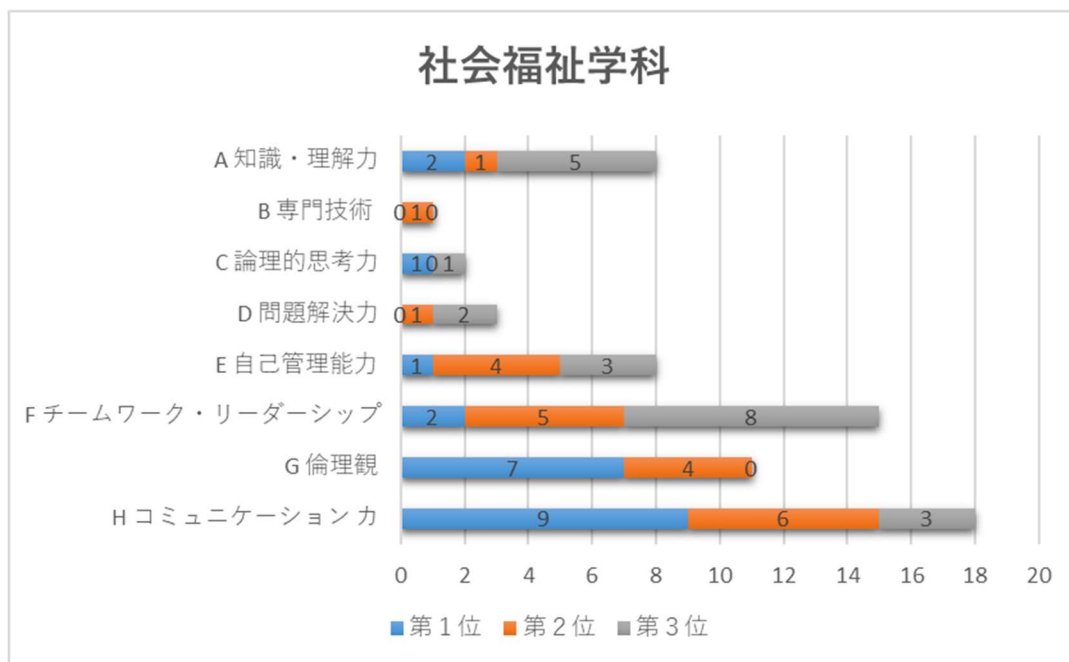
実際の評価（平均）

社会福祉(評価)
3.55
3.14
2.86
3.00
3.27
3.14
3.64
3.36

1位

2位

3位



社会福祉学科において、新入職員に対して特に重視されている項目は、1位：コミュニケーション力（合計18）、2位：チームワーク・リーダーシップ（合計15）、3位：倫理観（合計11）、続いて自己管理能力、知識・理解力という結果であった。対人援助職の基盤であるコミュニケーション力が最上位となっている点は、福祉現場の実情を反映した結果といえる。

実際の評価平均はH コミュニケーション力（3.36）G 倫理観（3.36）F チームワーク・リーダーシップ（3.14）となっており、全体としては3点台で安定している。特に倫理観やコミュニケーション力は比較的高い水準にあり、教育内容と現場ニーズは概ね一致していると評価できる。これは、対人援助職としての基礎的資質が着実に育成されていることを示している。

一方で、現場が高く求めているチームワーク・リーダーシップおよび自己管理能力については、他項目と比較するとやや低い傾向（3.14～3.27）が見られ、ここに一定のギャップが存在する。福祉現場では利用者支援だけでなく、多職種連携、シフト勤務、緊急対応など、常に変化する状況の中で協働しながら安定して働く力が求められる。そのため、専門知識や倫理観に加え、実践的な対人調整力や自己統制力のさらなる強化が課題である。

特に自己管理能力には、

- ①時間管理能力（業務やシフトを効率的に調整する力）
- ②体調管理（体力仕事に対応できる健康維持）
- ③感情管理・ストレスマネジメント（対人関係や緊張場面への対応）
- ④継続学習（制度改正や専門知識の更新への対応）
- ⑤ワークライフバランスの調整（長期的就労の基盤）

といった要素が含まれる。これらは「働き続ける力」を支える重要な能力である。今後は、グループワークや実習での役割遂行経験の充実、実習後の振り返り強化、シフト制アルバイトやボランティアによる時間管理の実践、ストレスマネジメント教育の体系化などを通じて、チームワーク・リーダーシップおよび自己管理能力の底上げを図る必要がある。

総じて、社会福祉学科は倫理観とコミュニケーション力という基盤能力については現場ニーズと高い一致を示している。一方で、実践的応用力のさらなる強化が求められており、「基盤は整っているが、協働力と自己統制力の向上が今後の鍵である」と評価できる。

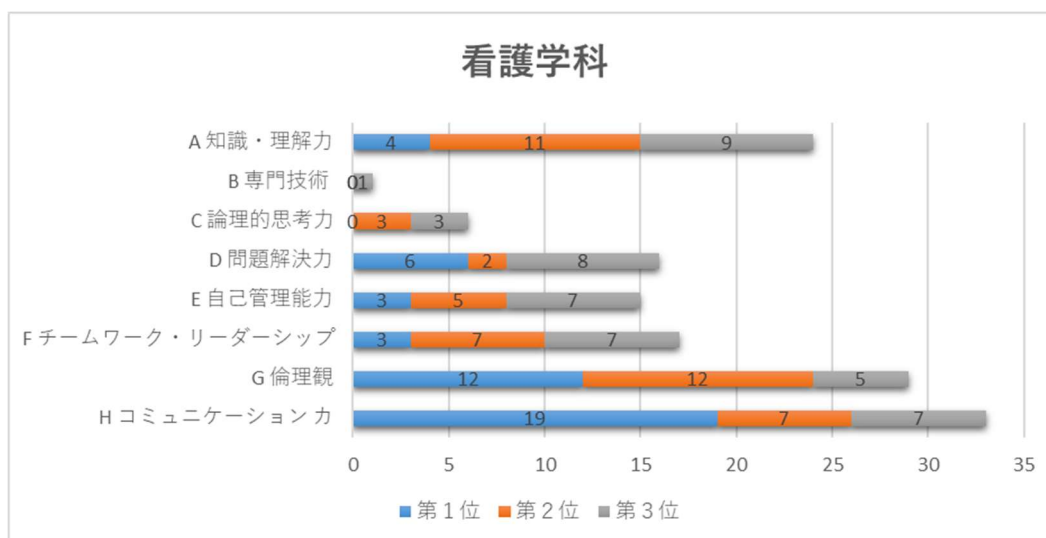
II-2-3.◆看護学科

新入職員に対して求められているスキル

実際の評価（平均）

看護学科	第1位	第2位	第3位	合計	看護（評価）
A 知識・理解力	4	11	9	24	2.89
B 専門技術	0	0	1	1	2.79
C 論理的思考力	0	3	3	6	2.66
D 問題解決力	6	2	8	16	2.60
E 自己管理能力	3	5	7	15	3.13
F チームワーク・リーダーシップ	3	7	7	17	3.02
G 倫理観	12	12	5	29	3.23
H コミュニケーション力	19	7	7	33	3.15

1位
 2位
 3位



看護学科において新入職員に対して重視されている項目は、1位：コミュニケーション力（合計 33）、2位：倫理観（合計 29）、3位：知識・理解力（合計 24）の順であった。患者・家族対応に加え、多職種連携の中で安全にケアを進める必要がある看護現場において、「対人調整」と「専門職としての判断」、そして「根拠となる知識」が重視されていることが分かる。

一方、実際の評価では、上位3項目の平均値は 3.13～3.23 の範囲にあり、全体としては「概ね普通～やや良い」水準で安定している。現場が強く求める能力に対して“十分高い水準まで到達している”というよりは、“基礎が固まりつつある段階”と捉えられる。特に、最重要視されている倫理観とコミュニケーション力が高めの評価を得ている点は現場ニーズとの整合が見られる一方で、知識・理解力は伸びしろが残る結果となっている。

看護現場で求められるコミュニケーション力は、単なる対話力ではなく、

- ①患者の訴えや変化を正確に引き出す力
- ②多職種へ要点を整理して共有する力
- ③緊急時に SBAR 等で簡潔に報告する力
- ④患者・家族の不安を受け止めつつ意思決定を支援する力

などを含む。評価をさらに押し上げるためには、実習・演習での申し送り／報告練習、事例に基づくロールプレイ、記録の質向上（「観察→解釈→対応→結果」を論理的に書く）を繰り返し、臨床場面で使える形に落とし込むことが効果的である。また倫理観は、知識として理解していても臨床で迷いが生じやすい領域である。実習後の振り返りで「その判断は患者の最善利益に沿っていたか」「代替案はあったか」「説明責任は果たせたか」を扱うケース検討を定着させることで、判断の質を高められる。知識・理解力についても、単なる暗記ではなく、病態と看護行為を結びつけて説明できるレベル（なぜこの観察が必要か、なぜこの対応を選ぶか）まで引き上げる学習設計が求められる。

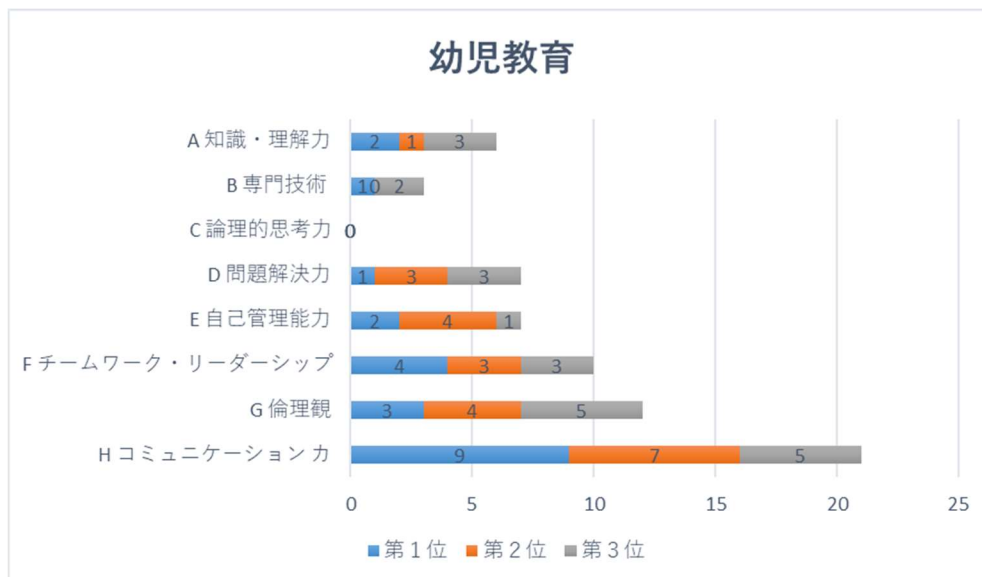
総じて、看護現場が上位に掲げる3項目は実際の評価でも大きく崩れておらず方向性の一致は見られる。一方で、平均との差が小さいからこそ「上位3項目を強みにする」には、コミュニケーション・倫理・知識を臨床判断と記録・共有（報連相）に統合する訓練を強化し、3点台前半から“3点台後半”へ底上げしていくことが重要である。

II-2-4.◆幼児教育

新入職員に対して求められているスキル

実際の評価（平均）

幼児教育	第1位	第2位	第3位	合計	幼児教育(評価)	
A 知識・理解力	2	1	3	6	3.32	
B 専門技術	1	0	2	3	3.18	
C 論理的思考力	0	0	0	0	3.09	
D 問題解決力	1	3	3	7	3.14	
E 自己管理能力	2	4	1	7	3.59	
F チームワーク・リーダーシップ	4	3	3	10	3.00	1位
G 倫理観	3	4	5	12	3.82	2位
H コミュニケーション力	9	7	5	21	3.36	3位



幼児教育学科において、新入職員に対して重視されている項目は、1位：H コミュニケーション力（合計21）、2位：G 倫理観（合計12）、3位：F チームワーク・リーダーシップ（合計10）の順であることが分かる。保育現場では、子どもとの関わりだけでなく、保護者対応や職員間の連携が日常的に求められるため、コミュニケーション力が突出して重視されている点は現場の実情を反映している。また、倫理観が上位に位置していることから、子どもの最善の利益を第一に考える姿勢や専門職としての判断力が強く求められていることがうかがえる。さらに、チームワーク・リーダーシップも上位に挙げられており、園全体で協働しながら保育を行う力が重要視されていることが明確である。

一方、実際の卒業生評価を見ると、平均値は3.00～3.82の範囲に分布している。最も高い評価はG 倫理観（3.82）、次いでE 自己管理能力（3.59）、H コミュニケーション力（3.36）となっている。**倫理観が最も高い点は、現場が重視する上位項目と一致しており、専門職としての基盤は確実に育成されていると評価できる。**一方で、最も重視されているコミュニケーション力は3.36と安定しているものの、突出した高水準とは言い難く、さらなる向上の余地がある。また、チームワーク・リーダーシップは平均3.00と他項目より低めであり、現場ニーズとの間に一定のギャップが見られる。特に、自己管理能力は実際の評価では比較的高い水準（3.59）にあるが、求められるスキルの順位では上位3項目には入っていない。しかし、保育現場では長時間勤務や行事準備、保護者対応など心身両面の負担が大きいため、自己管理能力は実務継続の土台として極めて重要である。本学科では自己管理能力はすでに高水準にあるため、今後はチームワーク力の強化が重要な課題である。保育現場では、担任一人の力量だけでなく、職員同士が連携しながら子どもを支える体制づくりが求められる。そのため、**学生の段階から役割分担を意識したグループワークや模擬保育、行事運営の共同企画などを通して、協働する経験を積ませることが効果的**である。また、活動後に連携の良かった点や改善点を振り返り言語化することで、実践的なチームワーク力が育成される。**個人の能力を高める段階から、組織の一員として機能する力を伸ばす段階へと教育を発展させることが、より質の高い幼児教育人材の育成につながる**と考えられる。

総じて、幼児教育学科の学生は倫理観という専門職の根幹的資質は高水準で備えている一方で、現場が最も重視するコミュニケーション力およびチームワーク・リーダーシップのさらなる強化が今後の課題である。特に協働力の底上げを図ることで、より実践力の高い幼児教育人材の育成につながると思える。

3.新入職員に対して足りないと感じていること、入職前に身につけておいてほしいこと

II-3-1.◆社会福祉学科

体力・ICT(タブレット・様々なアプリの知識、最低限のパソコン操作)
最近の傾向としては、介護の知識や技術以前に、一般的社会通念に乏しい方が増えているように感じます(コミュニケーション、時間管理、道徳、報連相など)。日常生活に支障はなくても、チームで仕事をする上で問題が生じることが増えています。最低限の社会的ルールやマナーを身につけたうえで入職いただくことが理想的ではありますが、昨今の人手不足や多様性の尊重、先天的な事情を抱えている方も多くいる中、学校での短期間で習得した学生を育て上げることがどれだけ難かしいかと察します。
実習日誌などを通して、その日の目標を具体的に設定し、それに対して自己評価できる力を入職前から意識して身につけておくことが望ましいと考えます。こうした習慣は、福祉の現場で利用者一人ひとりに合わせた支援を行う際に、自らの行動を振り返り改善していく力につながります。
積極的、自主的な姿勢を身につけてほしい。礼儀や態度についてはやや不足していると感じます。
他者との協調・協働に向けた積極性
社会人としてのビジネスマナー(敬語、挨拶、身だしなみ)・傾聴力・一般常識 入職時に、身につけているかどうかで違いが出ます。
社会人としての心構え(マナー)、あいさつ、言葉遣い、携帯電話などの使用(仕事時間中の取り扱い) コミュニケーション全般も含まれることだと思いますが・・・
現場で求められる報告、連絡、相談はもちろんのこと自身の不安や困りごとについて早めに周囲へ発信する姿勢が重要と感じています。
基本的な挨拶の大切さ
社会人としてのビジネスマナー、言葉遣い、敬語の使い方
利用者様に対しての言葉遣いです。「です、ます」が抜けたり、友達口調が混ざっているときがあります。また、逆に丁寧すぎて不自然な敬語を使用していることもあります。利用者様に安心感のある言葉遣いができるとうれしいと思います。
電話対応、メモの残し方(伝言)、社会人としての一般常識、社会経験が浅いと感じることが多い
一番大切だと考える事は、相手を思いやり、その人の気持ちに寄り添い、安心感を与える事が出来る人間性だと思います。その為、相手の話を聞く力(傾聴力)、表情や態度を読み取る力、そして相手の立場に立って共感する力などのコミュニケーション能力が最も求められると考えます。
コミュニケーションは大切だと思います。人の話を聞ける受け入れる事ができると他者とのコミュニケーションもとりやすいのではないのでしょうか？
社会人としての行動

新入職者には、介護に対する倫理感や使命感、そして介護という仕事に対する考え方の基礎をしっかり身につけておいてほしいと感じます。技術や知識も大切ですが、まず「人を支える仕事」であるという意識を持ち、相手を尊重する姿勢や責任感を備えて現場に臨んでほしいと思います。

II-3-2. ◆看護学科

生活力。コミュニケーション力。問題解決能力。患者に対し、最終段階の事のもりで世話ができていない気持ちが少ない。(入院患者) 1人で考え行動してきた機会が少なく、「誰かが」サポートしてくれる感が強くインシデントにつながっている。
ポジティブすぎる思考が気になりました。何でも「楽しいです」「できます」と捉えているため、振り返りが不十分であり先輩が間違いを指摘できないことがあります。仕事を甘く捉えているように感じる場合があります。
社会人基礎力
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション力 (あいさつや言葉使いなども) ・ 報告・連絡・相談 ・ 自己管理 (時間や提出物、物品の紛失など)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人としてのマナーや言葉づかい ・ 報告連絡相談の重要性
根拠に基づく思考能力、コミュニケーション能力、社会人としての一般常識
社会人基礎力、コミュニケーション力、気づき力がもう少し育ったらスムーズに就職後、困惑することなく、今後成長できると思います。
わからないことは、わからないと、はっきり伝えることができること
社会人基礎力です。社会人としてルールを守る、時間を守るなど、当たり前なことを当たり前だと感じ遵守してほしいです
自己管理能力：提出物などの期限を守る、自己の研修スケジュールの管理などできるようになってほしい。又、色々な提出物の文章を記載する際、話ことばで書いてくることがあるため学んできてほしい。この方の事ではなく全体的に対してです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ この8か月の間に、とても成長されています。自らすすんで先輩や患者さんとコミュニケーションを取れています。報連相も意識して行えるようになってきています。 ・ 患者さんに寄り添った看護をしようとする真摯な体度が入職時から変わらずあるため富山福祉短大での先生方の教育のお陰と感じます
<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告、連絡、相談の重要性を理解し1人で判断したり悩まないことの大切さを知った上での行動がとれるようになって欲しいです。 ・ 電子カルテの使用のためキーボード操作はある程度できて欲しいです。

<ul style="list-style-type: none"> ・自分からあいさつをすることや声をかける能力 ・わからない事を先輩に質問すること
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力に欠けている。 ・多様な学生生活を送って、複数のバイトなど経験をしている方はなじむことができる。 ・コミュニケーションもそれなりにできる。
<p>コミュニケーション力が不足していると感じます。特に、ご家族の方へのコミュニケーションスキルを向上することで、患者家族に寄り添った対応ができる</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識や技術を臨床で活用できていない。 ・予習、復習など積極的に自己研鑽する姿勢が見られない。
<p>一般常識として社会人としてのマナーを身に付けてきて欲しい（例：電話の取り方等）</p>
<p>一般常識。理解できていないことをそのままにしない責任感を身に付けて欲しい</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての基本的な態度、あいさつ、礼儀、言葉遣いなど ・安全意識
<p>何でも声をかけて相談してほしいが、タイミングとかもあり 4 月～5 月は自己解決していました。なかなかうまくコミュニケーションできないことがありました。先輩も気にかけていました。現在は知識を自ら考え 1 つ 1 つ声に出していることに成長を感じています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理 ・簡潔に伝える力 ・「情報を倫理的視点で考える」とはどういうことか、具体的な行動とは？日々の業務でどう取り組んでいくか。
<ul style="list-style-type: none"> ・解剖整理等、基礎的な知識を身に付けて欲しいと感ゲル ・授業での学習と実際の患者さんをてらしあわせて理解する力
<p>社会人として基本的な行動。提出物の期限を守るなど。伝え方にも問題があると思いますが貴施設に限らず不足していると感じます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつと良いこと、悪いことの判断力を強化してほしい。 ・報告、連絡、相談のスキルを身につけてきてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのルール、規律に沿って行動できるように。（入職時に学生の延長の感覚が抜けきれていない為） ・上下関係、あいさつ等
<p>社会人として基本的な行動。提出物の期限を守るなど。伝え方にも問題があると思いますが貴施設に限らず不足していると感じます。</p>
<p>社会人としての自覚。学生と社会人の違いを認識する。</p>

<p>社会人基礎力が弱いと非常に感じます。言葉使い、態度など、また提出物の出し方、期限を守るなど学生時代に出来ているであろうことが出来ていないことに驚いています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション力：発信力が足りない。思考発語や報連相ができれば良いと感じる ・ 社会人としての市政：タイムマネジメント、提出物、礼儀、あいさつなど
<p>ルールの遵守 期日を守る 積極性 言葉づかい</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な疾患に対する病態生理、アセスメント能力 ・ チームワークで患者を支える、患者ファーストであるという考え方 ・ 報告、連絡、相談しながら自主的に学ぼうとする姿勢
<p>ルールの遵守 期日を守る 積極性 言葉づかい</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶や返事など、基本的な接遇を身に付けて欲しい ・ 患者さんにタメ口をきくことが多いので、尊厳ある態度で接してほしいです
<p>社会人としての規範</p>
<p>提出物は期限を守ること。そのために計画的に行動することを心がけてほしいです。</p>
<p>患者に寄りそうとはどういうことか、何を意識し、いつ、どう行動することなのかを理解しようとする姿勢</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション力 ・ 積極的な行動、判断力
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人としての礼儀作法 ・ 自主性・積極性に他の学生と比べると少し足りないと感じることが多いです（全体としての感想です）
<p>人間関係をしっかり作るための、相談できる積極性、会話する能力（他者、先輩 NS は気づく事は出来るが声かけしないと表現できない時がある）</p>
<p>社会人としての礼儀作法</p>
<p>社会人としての意識付け（学生との違い）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを言語化して表現する力（自分の言葉で） ・ 倫理的、道徳的な感性 ・ 根気強さ、粘り強さ、あきらめない気持ち
<p>家族対応 面会に来ている家族に対して声をかけることがないため患者の状態や様子を伝えてほしい</p>
<p>患者・家族との良好な人間関係や信頼関係を築いていくためのコミュニケーション能力がやや低いように感じます。一方向ではなく双方向でのコミュニケーション能力の向上を期待します。</p>
<p>社会的基礎</p>

II-3-3.◆幼児教育学科

倫理観をしっかり持つこと。(社会人としてマナーや、入職した職場のルールを守ることの大切さ等を身につけておくことが重要だと感じます。)
挨拶(ありがとうと言える事)、すみません(ごめんなさい)等、基本的なところが自然と言えたらいいですね。初めてのことはばかりで気持ちに余裕がなく慣れるのに一生懸命かと思いますが分からないことは見たり聞いたりしていくことが大事だと思います。先輩方は迷惑とか思わないです。園のことを知ろうとしてくれていると受け止めてくれると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・危険予知能力 ・主体的に学ぶ姿勢 ・自ら楽しむ保育の姿勢 ・こども理解 ・基本的な挨拶や表情、態度 ・接遇、全般
<ul style="list-style-type: none"> ・本人なりに一生懸命頑張る姿が見られてきました。 ・健康な心身づくりに努めることが何よりだと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・困難にぶつかったときの対応能力 ・コミュニケーション(会話)能力
入職後、職員や保護者と積極的にコミュニケーションを取ることができることは本人の強みになると思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・足りないとは思っていませんが、保育は1人ではできないので他者と協働する力が必要と感じます。 ・社会人としての時間管理などが足りないように感じます。 <p>※この方についてはそのように感じておりません。</p>
学校を卒業したから終わりではなく、「学びの心」はずっと持ち続けて欲しいと思います。学費を払って教えてもらう立場だったが学生とは違い、社会人は受け取る報酬に見合うだけの働きをしなければなりません。責任感を持って主体的に行動できることを望みます。
<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよいあいさつ(先生はできています) ・チームワーク(経験豊富な保育士や他の職員と連携し、協力して保育を進める力) ・遊びの状況の把握—こどもたちが安全に楽しく遊んでいるか常に目を配る力
素直な気持ちで他者の意見を聞き入れる気持ちがあれば、保育の現場で円滑に仕事ができると感じています。
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔 ・フットワークの軽さ(自分に出来る事は率先して動く)
保育に関しては、その時々で目の前の子どもの発達や姿に合わせて指導を考えていくことが大切だと思うので、一般的なビジネスマナーの基礎(例えば電話の受け方や保護者との話し方等)を身につけて頂けたらと思う。

知識だけでなく臨機応変な柔軟な思考力
子どもはもちろん保護者との関わりが多いことから、人の中に入って、自分の意見を伝える、他者の意見も聞く耳を持つということが近年コミュニケーションをとらずにすごしてきている若者の姿の中に見られる。
入職後に積極的に子供と関わるために、実習期間以外にも経験しておかれると良いと思います。
素直な気持ちで他者の意見を聞き入れる気持ちがあれば、保育の現場で円滑に仕事ができると感じています。
基本的なコミュニケーション（報連相）わからないことはすぐに聴ける、意欲的に学ぶ力
一般常識、言葉遣い、マナー、言語化する力
あいさつをすること 期日までに提出物を出すこと
自己認識 レジリエンス

4. 新入職員の専門知識・技術として不足しているもの

II-4-1.◆社会福祉学科

腰痛予防になる方が多いので、自分の身体の動かし方、腰痛になりやすい姿勢など
移乗、オムツ交換などは実習で重度の方、麻痺などの障害のある方に介入した経験が少ないため職場で一から教える場面が多いです、突発的の対応を机上の学習通りにはいかないことがあります。しかし知識技術においてはたとえ入職時に不足していても、業務を続けることで、ある程度培うことはできると考えます。やはり(3)で述べた点が最も苦慮すべき課題です
学校で学んだ知識を現場での実践につなげていくためには、わからないことを率直に尋ねる力や、利用者や環境の変化に気づく力が重要です。これらは入職後も継続して育んでいく必要があり、福祉の現場で質の高い支援を行うための基盤になると考えます。
一般的な知識・技術は習得できていると思います。
障害に関する専門的な知識及びその対応
不足に感じる事はありません。
自己分析能力、向上心(PDCA、OODA など)
記録—自分が見たこと・気づき・利用者さんの状態像の把握したことを伝えられるよう文字として書くことができるように（他の職員にも伝えられるような記入内容）なってほしい

就労 B について入社前から基礎的な知識があると現場での理解が早い段階で深まったのではないかと感じます。一方でその点については常に学ぶ意識をもち自己研鑽に努めながら業務に取り組んでいます。また自身の強みを活かして事業所に貢献しておりとても貴重な存在であります。
特になし この方は利用者さんへの声掛けや接し方がとても上手だと思います。しっかりと基礎を学ばれたのですね。仕事も覚えがばっておられます。
安全・事故防止・リスク管理について日常の介助する上で注意する事を今後先輩の指導の下、身に付けて頂きたいと思います。
当法人は自閉症に特化した施設であるため、入職してからその専門性を高めていけば良いと思います。社会人になってからの学びは楽な方に流されない強い意識が必要になるので、その部分を学生時代に養ってほしいと思います。
コミュニケーションについて 利用者様へのゆっくり、丁寧な伝え方
障害への理解、子どもへの接し方、伝え方
評価項目において平均以上であり、仕事に対しても責任感を持ち主体的に取り組んでおられます。患者の些細な体調の変化に気づき、早期からNS、上司に報告する姿勢は素晴らしく、常に患者の安全を第一に考え、冷静に対応することが出来ています。
評価項目において平均以上であり、仕事に対しても責任感を持ち主体的に取り組んでおられます。患者の些細な体調の変化に気づき、早期からNS、上司に報告する姿勢は素晴らしく、常に患者の安全を第一に考え、冷静に対応することが出来ています。
知識や技術は働き始めてから学ぶことの方が多いと思うので、毎日業務にあたる中で身に付けていただければと思います。その際にわからないことなどあれば聞いていただけるとありがたいです。
素直さ
認知症に対して理解力の向上、適応力をさらに深めて欲しいと思います。介護を行う所として病院他施設などにおいて、知識の低下している方々に対し、適切な支援が望まれると思われま。今後、このような状況のある方が増加する傾向にあると考え、やはり認知症という患者及び利用者の方に対する知識を身につけていくことが重要なのではないかと思います。

II-4-2.◆看護学科

基本的な知識からおさえ直しています。わからない疾患、検査などそのままにして Bed サイドに行こうとします。知らない事に対する不安感がありません。「患者から質問されたら、どう答えるのか？」とたずねるとはじめて調べます。午前中にわからなかった事、午後にも調べてません。休憩は1時間しっかりとりま。・・・スマホで短時間でチェックできるんですね・・・。
演習が少ないカリキュラムで仕方がないことかもしれませんが、病院実習をもっと活用して技術を経験できるといいと思います。失敗体験が少なく、仕事で失敗した時のダメージが大きいです。

<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術をつなぐ事ができず、自己判断する事が多い ・何を報告して助言を得る必要があるのか、どんな事が重要なのかを判断すること（新人でわからないなら、しっかり報告ができるなど）
アセスメント力
コミュニケーション力（患者の話を聞く、聞き出す、共感する力）
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な看護技術→業務が忙しくなるとできないのは仕方がないが、優先度が低いせいかしなくなってしまう。 ・職業倫理→接遇
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力、コミュニケーション力、気づき力がもう少し育っていたら、スムーズに就職後混乱することなく、今後成長できると思います
コミュニケーション力です。情報は患者本人から聴取しますが、まず話すことができません。どんな話しかけ方をしたらいいのかもスキルなので訓練だと思います
わからない事があれば、自分で一度調べるという習慣が身に付いていると、より成長につながると思いますその上で先輩に相談することで、問題解決につながりやすいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定時の観察項目の知識 ・症状に関連づけて観察する能力
正直、入職時には求めないです。むしろ、課題と感じ、自ら解決に導こうとする能力を養ってあげれば良いと思います。
特にありません。（現場も教材ツールが以前より豊富になっているため）
入職してから技術研修をするが、よく使用する医療機器が何に使用されているかを事前に理解していると良い
<ul style="list-style-type: none"> ・疾患と症状、治療、検査、看護のつながりや理解 ・技術は入職時に研修があり、部署で学ぶこともできる
報告、連絡、相談ですね。そう言える環境で安心して働けるように心がけています。
解剖生理の学習 全体・全身を統合してアセスメントする力→どうみていくといいのか
国家試験にも誘導心電図の貼付する場所など学ことができるところは知識としてもっておき、活かせると良いと考える どのような場面で必要な技術なのか、詳しく分かったらよい
知識はあっても、看護実践力に結びつかず、活かせていないことが多いと感じます。実践力を身に付けるには学生の頃から臨床実習等を活用して指導していただきたいと思っています。
各疾患の観察力を高めてほしい（電カルテで前日の情報をコピーすることが多い） 右ならえして変更気づかない、正しい観察ができない

新人職員で足りていない面は多少あるが、不足している事に対して積極的に学ぶ姿勢がみられない為、一番先輩が困る。
自分自身のストレス対策。
学習構築が弱い印象です。教えた事を活かしていく、応用していく力が弱いです。
フィジカルアセスメント能力 数値だけを見てそれが何を示しているのか今後どのようなことが予測されるか考える力
様々な疾患の病態生理が不足しており、今患者の身体の中で何が起きているのかをアセスメントする力が不足していると感じます。
わからないことを調べる、聞くことをせずに行動する 自己流の感染対策をしてしまう 知識と情報が繋がっていない
アセスメント能力
患者様が安全に過ごされるにはどのような配慮が必要なのか考えてほしいと思う。
・観察力 ・観察したことを次に展開する力
・疾患に対しての観察する注意点など。 ・ほぼ何も出来ないと考え指導しています。(技術)
最近、チャット GPT があるからか自分で調べることが不足していると思う 自分で考える力など
基礎的な事柄の知識は問題ない、技術面も現場で経験して能力を向上していくので、学生の実習の場で体験できれば良いと思うが、不足はない
全て根拠づけて考えること
知識・技術は働きながら磨いて行けば良いと思っている
入職して身に付けることができると思うので不足している内容はありません
患者を全人的に捉え、看護上の問題を分析し、看護を実践していくために、目に見えている現象だけを捉えるのではなく、患者・家族の背景や、看護上の問題の背景にある患者・家族の思いにも関心を寄せ、問題点を分析していく力があれば良いと考えます。

II-4-3.◆幼児教育

・保育実践 ・現場ですぐ身につけたものを実践する力が必要かと思います。
--

<p>それぞれの園の特徴や文化があるので就職してから取り組んでいかれてもとは思いますが。経験を身につけていくものだと思っていますので、日々子供たちとの関わりの中で学びさらに知識を得て行って欲しいです。又、自身がいろいろなことに興味や関心をもってかかわり、学び得ていくことが大切ではないでしょうか。保護者として大事にしてほしいです。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育を安全かつ楽しく展開するための技能 ・ 保育内容や指導計画（指導案）を立案する力 ・ 災害に対する危機管理意識
<p>まだ社会人1年目なので、不足していたとしても当然、学ぶ姿勢が大事と考えています。</p>
<p>ITの技術 パソコン等 動画編集 ワード・エクセル・パワポ等の基礎</p>
<p>不足というよりも、実際の保護者対応などは入職して初めて経験することなので、実践しながら専門知識・技術などを身に付けていくことが多いと思います。</p>
<p>専門知識は皆さんお持ちだと感じます。実際の子どものぐずり泣きを前にするとスムーズな対応が難しいようです。（当たり前のことなので研修を実施しつつ、時を経て習得しています）</p>
<p>当法人は、自閉症に特化した施設であるため、入職してからの専門性を高めていけば良いと思います。社会人になってからの学びは学校とは違い、強い意欲が必要になるので、学生時代に養ってほしいと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達の個人差の理解 ・ 各年齢の発達の特徴 ・ 応急処置（ケガ・誤飲・アレルギー）
<p>遊ぶこと（見守るのではなく一緒に遊ぶ 年齢に応じて遊びを工夫する</p>
<p>専門知識や技術は経験を重ねて身に付いてくるものと思うので、経験することに必要な、又は経験にいかせる教材・グッズが1つでも多くあると良いと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育に携わる人として、音楽的なピアノ演奏や、文章を書く能力が必要と考える。 ・ 常識知らずの傾向が強くなっていることが懸念される。
<p>専門知識、技術は働きながら学んでもらえば問題ないが、入職先の会社や事業内容などは、最低限知識として頭に入れておいてほしい</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日案の書き方 ・ 週案、月案の書き方（本を読むこと、調べ方を学ぶ）
<p>教科書の情報は過去の事例を体系化してまとめたもの 少なくとも5～10年前の実瑛が多いのではないかと 現代ではそれがすべてと思うと現場に適さない</p>

5. その他、本学の教育に対するご指摘、ご要望など

II-5-1.◆社会福祉学科

いつもありがとうございます。我々施設職員が直接先生方とお話する機会が少なく、それぞれの立場で現状や課題など情報交換できる場があればよいなあと思います。
専門職としての障害者施設や事業所の魅力を学生に伝える機会を設けていただきたいと考えます。現場の職員からも直接伝えに伺うことで、学んだ知識と実際の仕事の魅力を結びつけ、福祉の仕事への理解や関心を深める場になることを期待しています。
介護実習を通じて、今後も当施設への就職へつなげてほしいと思います。
知的障害に関する理解の向上に向けた研修等の研鑽
伸びしろが大きい生徒をご紹介いただき、今後とも宜しく願います。
連携の強化
特にございませんが今後、同様のアンケートを実施される際には手書きか電子アンケートフォームなど選択肢があるとより◎答がしやすいと感じました
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生と社会人としての違いを学ぶ ・ 専門職として基礎知識と根拠、観察力を身に付けて頂きたい ・ 日常記録の必要性和記録方法
福祉の仕事に就く為の心構えや、社会人としてのマナー等、学ぶ機会を多く与えてあげてください
前述のコミュニケーション能力を前提とし、そのうえで、基本技術の理解を実践、安全で適切な介助方法（移乗、食事、排泄など）を身に付けて欲しいと思っています。また、相手の体調や小さな変化を見逃さない観察力を持ち、報告・連絡・相談することの大切さを理解して欲しいと思います。
4月からの入社前に辞退されましたので評価することはできません。しかしながら、今後とも有望な人材を迎えたいと考えておりますので希望される方がおられましたらご連絡をお待ちしております。

II-5-2.◆看護学科

本学だけの問題ではなく、全体として新人に言える事ですが、紙面上で時間管理を練習している学生から、社会人として患者のスケジュールに責任をもつために“時間管理”コミュニケーション力“そして先輩をうまく活用し”報・連・相“をして”サポートを受ける力“が求められます。自分中心となりがちな新人に、もっと医療職として「誰のために」を意識し行動できる様になってほしいと思います。
社会人としての心構えのようなものを指導していただきたいです。
前向きに仕事にとりこんでくれています

<ul style="list-style-type: none"> ・看護師としての適性があるか判断してほしい ・大学在学中に問題がある場合は卒業後、定期的に面談など検討して欲しい。本人についての詳しい情報提供をお願いしたい。 ・本人について詳しい情報提供をお願いしたい
今後とも、よろしくお願い致します。
今後共よろしくお願い致します。 元気に働いてくれています。
一般常識として社会人としてのマナーを身に付けてきて欲しい（例：電話の取り方等）
全体での最終カンファレンスでのディスカッションについて建設的な意見や指導者が参加しているため問題解決につながるようなカンファレンスが望ましいと思う。
今後とも、よろしくお願い致します。
卒業生の皆様には、当院の看護力の向上に貢献していただいています。今後もよろしくお願い致します。
言葉遣い（特に患者さんに対する）をもっと指導してほしい。
卒業生の皆様には、当院の看護力の向上に貢献していただいています。 今後よろしくお願い致します。
毎年、貴校より学生の入職をいただき感謝しております。正直、育成にかなりの時間を要しておりますがなんとか1人立ちに向けて指導しております。
在学中に、BLSを学んでおり、急変時に落ちついて対応できていました。また、将来ビジョンを持ち、目標意識をもって業務に取り組む姿勢が育成されていると感じます。
あいさつ、コミュニケーションはできていると感じます。
いつもお世話になっております。卒業生を送り出していただき、ありがとうございます。当方もできる限りの成長を後おしらせていただきます。
1の質問項目は、まだ指導中でもあり、評価はしがたい状態です。評価困難だと思います。又、個人のお名前が入っていますが、個人的な問題もあり教育の評価となるのか難しいです。上記の新人看護師はとても頑張っています。いずれ素敵なナースになってくれると思っています。
実習中は、もっと指導者にどんどん質問していけるようになると、より有効な実習につながると思います。
厳しい評価となっておりますがご了承ください。整形外科病棟で頑張っていますがなかなか夜勤のメドがたっていない現状です。焦らず当院としても育てていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。副看護部長
貴学の卒業生である看護師は、社会の規範やルールに従って行動できる倫理観の高い看護師が多いと感じています。今後も、多くの卒業生を採用したいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

II-5-3.◆幼児教育

A 先生は、日々、笑顔で保育に取り組まれています。日々の実践が学びとなるよう、共にふり返りながら、保育の力を高めていけることを期待しています。今後ともよろしくお願い致します。
A さんなりに少しずつコミュニケーションは向上してきております。体調を崩すこともなく毎日一生懸命仕事に向き合い頑張っています。
実習中の活動が集団での遊びとなると保育者として難しさを感じます。実習前、実習後には学生同士の情報交換（遊びやゲーム、手遊び、歌等）も行われていることと思いますが楽しい活動にするためにもいろいろなことを知識としてためておくのと良いかもしれません。この職業に就きたいという思いで望まれているので、期待しております。
<ul style="list-style-type: none"> ・現場ですぐ、活用できる知識や教材（パネルシアター、ペープサートなど）、学生の中にレポーターを増やし園児の前で自信を持って演じる技量を身に付ける ・専門知識として身につけるための専門書の活用（ネット配信のみではなく）
保育の仕事は楽しい、せっかく取得した資格を活かす働き方をぜひ挑戦して行ってほしいです。1人でも新採の方と一緒に働ける事を希望しています。
是非実習をたくさんして頂きたいです。当園でもお待ちしております。
S さんは他の新人さんと比較しても人柄、意欲、知識において素晴らしいです。ありがとうございます。今後ともご縁があると嬉しいです。引き続き、よろしくお願いいたします。
とても毎日、元気に楽しく子どもと触れ合って保育をしてくださり感謝しています。
他者の意見を聞いていく気持ちがあるので日々向上されておりうれしく思います。ありがとうございます。
当法人の個々への保育実習や保育体験（オープン保育）を勧めて頂きたい。 N さんは、保育に前向きで、がんばっておられます。
今後も宜しくお願い致します。
「福祉短大の学生なら、大丈夫！」と思わせていただける人材育成をお願いします。
他の職員とのコミュニケーションをとりながら向上心を持って吸収していく気持ちがある M さんです。半年たった時点で頼れる保育教諭になっておりとてもうれしく思っています。感謝致します。
夢や希望をアウトプットする機会が多くあれば良い

III. まとめ

III-1.◆社会福祉学科

社会福祉分野の現場からは、卒業生に対し、まず「社会人基礎力の徹底」が強く求められている。具体的には、報告・連絡・相談の確実な実践、基本的なビジネスマナー（挨拶・敬語・身だしなみ）、時間管理、協調性、責任感を備えた主体的な行動である。加えて、利用者に寄り添う姿勢や傾聴力、共感力、安心感を与える言葉遣いなど、人間性に根ざしたコミュニケーション能力が最も重要であるとの意見が多くみられた。

専門知識・技術面については、移乗・排泄等の基本的介助技術、安全管理・リスクマネジメント、記録力、ICT活用能力などの基礎力の定着が求められている。また、障害特性や認知症への理解、観察力の向上など、利用者の小さな変化に気づき適切に対応できる実践力の強化も課題として挙げられた。一方で、知識・技術は入職後の経験を通して伸ばすことが可能であるとの見解もあり、その前提として主体性、学び続ける姿勢、自己省察力（PDCA等）が重要であると指摘されている。

学校への要望としては、実習における目標設定と振り返りの強化、基本的な生活指導や社会人マナーの徹底、福祉専門職の魅力発信、施設との情報交換・連携強化が挙げられた。また、卒業生の中には責任感を持ち安全意識高く業務に取り組む姿が高く評価されている例もあり、育成の成果も確認されている。

以上のことは、就職先職員が新入職員に求めるスキルとして挙げた「コミュニケーション力」「チームワーク・リーダーシップ」の強化が必要であるという分析結果と一致している。また、本学卒業生評価において課題とされた論理的思考力、問題解決力、自己管理能力の向上が求められる点とも共通しており、今後は社会人基礎力と実践力を両輪とした教育のさらなる充実が求められる。

【現場からのご要望】

1. 入職前に強く求められる社会人基礎力

- ・基本的なビジネスマナー（挨拶、敬語、身だしなみ、電話対応、言葉遣い）
- ・一般常識、時間管理、報告・連絡・相談の徹底
- ・責任感、主体性、協調性、素直さ
- ・自己分析力・向上心（PDCA等）、学び続ける姿勢
- ・不安や課題を早めに発信する姿勢

※近年、介護技術以前に社会性やチームで働く力の不足を課題とする声が複数あった。

2. コミュニケーション力・人間性

- ・傾聴力、共感力、相手の立場に立つ姿勢
- ・利用者に安心感を与える言葉遣い
- ・ゆっくり丁寧に伝える力
- ・表情・態度・体調変化を読み取る観察力
- ・「人を支える仕事」であるという倫理観・使命感を基盤とした人間性を最も重視する意見が多い。

3. 専門知識・技術面

●基礎的技術

- ・ 移乗、排泄介助等の基本技術の理解と安全な実践
- ・ リスク管理・事故防止への意識
- ・ 記録力（状態把握・他職員に伝わる記載）
- ・ ICT（タブレット、アプリ、PC 基本操作）
- ・ 腰痛予防など身体の使い方

※知識・技術は入職後に伸ばせるとの意見もあるが、基礎理解があると現場適応が早いとの声あり。

●専門性の向上

- ・ 障害理解（特に知的障害）
- ・ 認知症への理解と対応力
- ・ 自閉症等、施設特性に応じた専門性の深化

4. 実習・教育への要望

- ・ 実習目標の具体化と自己評価力の育成
- ・ わからないことを率直に質問する力の養成
- ・ 福祉専門職の魅力を伝える機会の充実
- ・ 学校と施設間の情報交換・連携強化の希望

5. 評価・その他

- ・ 主体的に取り組み、安全意識が高い学生への高評価あり
- ・ 伸びしろのある人材紹介への期待
- ・ 入社辞退者あり（評価不可）

III-2.◆看護学科

看護現場からも卒業生に対してまず「社会人基礎力」の徹底が強く求められている。具体的には、挨拶・敬語・礼儀作法、期限遵守、提出物管理、ルールの遵守、報告・連絡・相談の徹底、自己管理能力などである。学生気分が抜けきらない態度や、自己判断で行動してしまう傾向、困難時に相談せず自己解決しようとする姿勢がインシデントにつながるとの指摘もあった。また、患者・家族・スタッフとの円滑なコミュニケーション力、とりわけ傾聴力、共感力、家族対応力の向上が課題として挙げられている。

専門知識・技術面では、解剖生理や疾患の病態生理に基づく思考力、フィジカルアセスメント能力、観察力、症状と関連づけて判断する力が不足しているとの意見が多い。知識はあるものの実践に結びついていない、根拠に基づく思考が弱い、数値の意味や今後の予測まで考えられていないといった課題が示された。また、基本的看護技術（ベッドメイキング、感染対策、バイタル測定、電子カルテ操作等）の確実な習得も求められている。一方で、技術は入職後の研修や現場経験で向上可能であり、重要なのは自ら学ぼうとする姿勢であるとの意見もみられた。

教育への要望としては、臨床実習の充実、失敗体験を含む実践的経験の機会拡充、心理面を含むコミュニケーション教育の強化、社会人としての心構えの徹底、事例カンファレンスでの根拠に基づくディス

カッション力の育成などが挙げられた。また、学生の適性把握や情報共有の在り方についての意見もみられた。

総じて、看護実践力を支える基盤として、社会人基礎力とコミュニケーション力、そして根拠に基づき統合的にアセスメントする思考力の強化が強く求められている。一方で、成長を実感しているとの評価や、倫理観の高い卒業生が多いとの肯定的意見もあり、基礎的素養を土台としたさらなる実践的教育の充実が今後の課題である。以上のことは、就職先職員が新入職員に求めるスキルとして挙げた「コミュニケーション力」「倫理観」という分析結果と一致している。

【現場からのご要望（看護分野）】

1. 入職前に強く求められる社会人基礎力

- ・ 基本的なマナー（挨拶、敬語、礼儀、電話対応、適切な言葉遣い）
- ・ ルール遵守、時間厳守、提出物の期限管理
- ・ 報告・連絡・相談の徹底（自己判断せず、適切に相談する力）
- ・ 責任感、主体性、協調性、積極性
- ・ 自己管理能力（スケジュール管理、物品管理、環境整備）
- ・ 学生と社会人の違いを自覚した行動

2. コミュニケーション力・人間性

- ・ 患者・家族・スタッフとの円滑なコミュニケーション力
- ・ 傾聴力、共感力、患者・家族に寄り添う姿勢
- ・ 家族対応力（状態説明・声かけ）
- ・ 自ら質問・相談できる姿勢
- ・ チーム医療の一員として協力し合う意識

※報連相の弱さや自己完結傾向が課題として挙げられた一方、成長を評価する声もあった。

3. 専門知識・技術面

●基礎的技術

- ・ ベッドメイキング、感染対策、バイタル測定など基本的看護技術の確実な習得
- ・ 安全意識・職業倫理の徹底
- ・ 電子カルテ操作、基本的 ICT スキル
- ・ 医療機器の基礎理解

●アセスメント・思考力

- ・ 解剖生理、疾患の病態生理の理解
- ・ フィジカルアセスメント能力（数値の意味を解釈し予測する力）
- ・ 観察力（変化に気づき、次の行動につなげる力）
- ・ 根拠に基づき統合的に考える力

※知識はあっても実践に結びついていないとの意見が多く、思考力と実践力の統合が課題とされた。

4. 実習・教育への要望

- ・臨床実習・演習機会の充実（失敗体験も含めた実践経験の拡充）
- ・心理面を含むコミュニケーション教育の強化
- ・社会人としての心構えの徹底指導
- ・根拠に基づくディスカッション力を育成する事例カンファレンスの充実
- ・学生の適性把握および必要に応じた情報共有体制の検討

5. 評価・その他

- ・入職後に大きく成長しているとの評価あり
- ・倫理観が高く、病院の看護力向上に貢献しているとの肯定的意見あり
- ・育成には一定の時間を要するが、今後も採用を希望する声が複数あった

以上より、看護現場では「社会人基礎力」「コミュニケーション力」「根拠に基づくアセスメント力」の強化が特に求められていることが明らかとなった。

III-3.◆幼児教育学科

保育現場からも、卒業生に対してまず「社会人基礎的」と「実践力」の確立が強く求められている。具体的には、園の方針や文化を理解し柔軟に適應する力、現場で学んだことを即実践に移す行動力、主体的に学び続ける姿勢、向上心、他職員の意見を受け止めながら成長しようとする態度などである。また、入職先の事業内容や保育方針について最低限理解しておくことも望まれている。

コミュニケーション面では、子どもと積極的に関わり、見守るだけでなく一緒に遊ぶ姿勢、年齢や発達段階に応じて遊びを工夫する力が求められている。さらに、保護者対応力や職員間の円滑な連携、自己の考えや夢を言語化して発信する力も重要視されている。子どもや保護者、同僚との信頼関係を築くための対人関係能力の向上が、現場での安定した実践につながるとの意見がみられた。

専門知識・技術面では、発達の個人差や各年齢の発達特性の理解、応急処置（ケガ・誤飲・アレルギー等）、安全管理や災害時の危機管理意識など、保育の基盤となる知識の定着が求められている。また、指導案（日案・週案・月案）の作成力、実際の子どもの姿に応じて柔軟に対応する実践力、現場ですぐに活用できる教材や遊びのレパートリーの充実、園児の前で自信をもって表現する力も課題として挙げられた。加えて、ピアノ演奏などの音楽的スキル、文章作成能力、Word・Excel等の基本的なITスキルの習得も期待されている。一方で、専門知識や技術は入職後の経験を通して高めていくことが可能であり、重要なのは経験を学びに変える姿勢であるとの意見もあった。

教育への要望としては、実習機会のさらなる充実、個別実習やオープン保育の拡大、学生同士の情報交換を通じた遊びのレパートリー蓄積、専門書を活用した体系的学習習慣の形成、現代の保育実践に即した教育内容への更新などが挙げられている。また、「福祉短大の学生であれば安心」と評価される人材育成への期待も示された。

総じて、保育現場では「現場で即活かせる実践力」「発達理解に基づく専門性」「主体的に学び続ける姿勢」の強化が強く求められている。一方で、子どもと前向きに関わり成長を重ねている卒業生への高評価

や、今後の採用・実習受け入れへの前向きな姿勢も多く示されている。基礎的素養を土台とし、実践に直結する教育のさらなる充実が今後の課題である。以上のことは、就職先職員が新入職員に求めるスキルとして挙げた「コミュニケーション力」「倫理観」「チームワーク・リーダーシップ」という分析結果と一致している。

【現場からのご要望（保育分野）】

1. 入職前に強く求められる社会人基礎力・姿勢

- ・現場で身につけたことを即実践に移す力
- ・学び続ける姿勢、向上心、強い意欲
- ・他職員の意見を聞きながら成長する姿勢
- ・園の方針や文化を理解し、柔軟に適応する力
- ・入職先の事業内容等の基本的理解

2. コミュニケーション力・対人対応力

- ・子どもと積極的に関わり、一緒に遊ぶ姿勢（見守るだけでなく主体的に関わる）
- ・年齢や発達段階に応じて遊びを工夫する力
- ・保護者対応力（実践の中で身につける力）
- ・他職員との円滑なコミュニケーション
- ・自分の考えや夢・希望を言語化し、発信する力

3. 専門知識・技術面

●基礎的専門力

- ・発達の個人差や各年齢の発達特性の理解
- ・応急処置（ケガ・誤飲・アレルギー等）の知識
- ・安全管理および災害に対する危機管理意識
- ・保育を安全かつ楽しく展開する技能

●計画・実践力

- ・指導計画（指導案、日案、週案、月案）の作合力
- ・実際の子どもの姿に応じた柔軟な対応力
- ・現場で活用できる教材・レパートリーの充実（パネルシアター、ペープサート、手遊び、歌等）
- ・園児の前で自信をもって表現する力

●基礎スキル

- ・ピアノ演奏等の音楽的技能
- ・文章作成能力
- ・ITスキル（Word、Excel、PowerPoint、動画編集等の基礎）

※専門知識・技術は入職後に高めることも可能との意見がある一方、専門知識の低下傾向を懸念する声もみられた。

4. 実習・教育への要望

- ・実習機会の拡充（個別実習・オープン保育の増加）
- ・学生同士の情報交換や遊びのレパートリー蓄積の強化
- ・専門書の活用など、体系的な学習習慣の定着
- ・現代の保育現場に即した内容への更新
- ・「福祉短大の学生なら安心」と評価される人材育成

5. 評価・その他

- ・子どもと前向きに関わり、成長が見られるとの高評価あり
- ・意欲や人柄を評価する声が複数あり、今後の活躍に期待
- ・継続的な実習受け入れや採用への前向きな姿勢が示された

以上より、保育現場では「実践力」「発達理解に基づく専門性」「主体的に学び続ける姿勢」を基盤とした教育の充実が求められていることが明らかになった。

IV. 学科ごとの考察

社会福祉学科	<p>昨年度と同様に、高い倫理観の育成やコミュニケーション力について評価されている点は学科でも強化している点であり、評価したい。一方、問題解決能力については、近年、病気や障害を抱えて入学してくる学生が増加傾向にあり、個別支援が必要と考える。また、求められているスキルとして、チームワーク、リーダーシップ、自己管理能力が挙げられているが、チームワークやリーダーシップについては教育内容にも入っている部分でもあり、更なる強化が必要と考える。さらに社会人としてのマナーなどについては、授業において修得できるものではないため、日々の学生生活の中で教員だけでなく職員も含めた取り組みが必要である。</p>
看護学科	<p>1位の項目では倫理観、コミュニケーション能力、自己管理能力であるが、総合では、コミュニケーション能力、倫理観、知識・技術となる。また最も低いものは専門技術であった。専門技術の意味合いをどのようにイメージしているのかが問題であると思われる。看護では、専門や認定、特定行為を行うキャリアアップがあるため、それを想像した可能性もある。新人職員に付けて欲しい社会人基礎力にの記載があるが、社会人基礎力が挨拶ができる、提出物が期限に出せるというイメージで記載されているのではないかという文面が散見される。指摘されている、挨拶やマナーなど躰の部分は、これまでの生活で醸成されてきている部分が大きく影響するが、短大としてはボランティアなど社会参加を通じて、また、家族との協力を得て醸成していく必要がある。社会人基礎力は、グループワークなど授業構成で醸成させる部分もあると考える。</p>
幼児教育学科	<p>①コミュニケーション能力が要求されている。子どもや保護者対応、職員間の報告連絡を適切に行うためにも不可欠。引き続き、アクティブラーニングの観点での授業改善を行っていく。 ②業務に対する意欲、責任感が必要とされている。授業の中で、あるいは丁寧な個別支援によって培われることを意識できるよう、教員側の共通理解と実践が求められる。 ③文章表現力、作成力の弱さについては過去から指摘が多い。実習指導の授業のほか、専門科目においても、基本的な文章作成力、あるいは、専門知識や理論と関連付けた文章表現の指導がさらに必要と思われる。 ④能力の個人差がまだある。入学時の能力に個人差がある。課題のある学生等に指導が十分に行き届くような授業形態を考える必要がある。</p> <p>⑤保育実践力についての課題がある。学生同士の模擬授業や福祉社会と連携した授業を増やしているが、さらに授業内容を充実するように取り組む。</p>

V. 令和5年卒業生対象の就職先アンケート結果との比較

◆社会福祉学科

R5（22名）とR6（16名）を比較すると、全体として改善傾向が見られると評価できる。まず大きな変化として、今年度は「4.良い」「5.優秀」の割合が増加し、「1.劣る」「2.やや劣る」の低評価が減少している。特に倫理観（G）およびコミュニケーション力（H）においては、高評価層が安定して多く、分布が上位側にシフトしている点が顕著である。これは社会福祉分野で求められる基礎的資質の育成が着実に進んでいることを示している。また、チームワーク・リーダーシップや自己管理能力についても、昨年度は低評価が一定数見られたが、今年度は「3.普通」以上に集中する傾向が強まり、基礎力の底上げが確認できる。評価のばらつきがやや縮小し、全体の安定感が高まっている点も前向きな変化と言える。

一方で、論理的思考力や問題解決力については、依然として中間層（3）に集中しており、大幅な飛躍というよりは「底上げ型の改善」と見るのが適切。突出した高評価が増えているというよりも、低評価の減少により平均値が安定してきた印象である。

社会福祉学科	R5	R6
A 知識・理解力	3.13	3.55
B 専門技術	3.00	3.14
C 論理的思考力	2.81	2.86
D 問題解決力	2.69	3.00
E 自己管理能力	3.00	3.27
F チームワーク・リーダーシップ	2.88	3.14
G 倫理観	3.50	3.64
H コミュニケーション力	3.38	3.36
総合	3.13	3.27

社会福祉学科における R5 と R6 の平均評価比較においては、全体として評価の向上が見られる。総合評価は 3.13 から 3.27 へ上昇しており、基礎的能力の底上げが進んでいることが確認できる。

項目別では、特に A 知識・理解力（3.13→3.55）および D 問題解決力（2.69→3.00）の伸びが顕著であり、専門的知識の定着と実践的判断力の向上がうかがえる。また、F チームワーク・リーダーシップや E 自己管理能力も改善しており、組織内で協働する力や安定して働く力の強化が進んでいる。

一方で、H コミュニケーション力は 3.38 から 3.36 と微減しており、大きな低下ではないものの、今後も維持・向上を意識する必要がある。総合的に見ると、

- ・低評価の減少
- ・高評価層の増加
- ・評価分布の安定化

という点で、昨年度よりも着実な改善が見られると判断できる。今後は、思考力・問題解決力をさらに高める実践型学習を強化することで、よりバランスの取れた人材育成につながると考えられる。

◆看護学科

看護学科	R5	R6
A 知識・理解力	3.27	2.89
B 専門技術	3.19	2.79
C 論理的思考力	3.04	2.66
D 問題解決力	2.85	2.60
E 自己管理能力	3.62	3.13
F チームワーク・リーダーシップ	3.31	3.02
G 倫理観	3.65	3.23
H コミュニケーション力	3.50	3.15
総合	3.30	3.02

R5（26名）とR6（47名）を比較したところ、全体的に評価水準がやや低下した年度であると判断できる。すべての項目で平均値が下がり、特に自己管理能力や倫理観、専門技術、知識・理解力において低下幅が大きく、従来強みとされてきた領域にも変化がみられた。また、評価分布では「4・5」の上位層が減少し、「3」に集中する傾向が強まっており、突出した高評価層の割合が縮小していることが平均値低下の一因と考えられる。

一方で、評価が極端に崩れているわけではなく、多くの項目で中間層に収束していることから、「著しい質の低下」というよりは「水準のやや低い安定化」と捉えるのが妥当である。対象人数がR5（26名）からR6（47名）へと増加している点も考慮すると、R6の評価はより安定した母数のもとでの結果であり、単純な数値比較だけで断定することは避ける必要がある。

総合的に見ると、R6は基礎力の大きな崩れは見られないものの、上位層の育成という観点では課題が残る年度であったと整理できる。特に社会人基礎力と専門的実践力の双方に課題が及んでいることが明らかである。今後は、自己管理能力を含む基礎的態度の強化とともに、知識・思考・判断・実践を統合するアセスメント力の育成を一層重視した教育の充実が求められる。

◆幼児教育学科

R5（22名）とR6（23名）を比較すると、全体として評価分布はやや変化しているものの、大きな構造転換というよりは分布の安定化が進んだ年度と評価できる。

総合評価を見ると、R5では「4・5」が45.5%（36.4%+9.1%）であったのに対し、R6では43.5%とほぼ同水準で推移している。一方で、「1・2」の低評価はR5の13.6%からR6では8.7%へ減少しており、低評価層の縮小が確認できる。これにより、全体として評価のばらつきはやや収束し、安定感が高まっている。

項目別にみると、倫理観（G）およびコミュニケーション力（H）は引き続き高評価層が比較的多く、R6においても「4」以上の割合が高水準を維持している。特に倫理観はR5でも高評価が目立っていたが、R6でも安定しており、幼児教育分野で重視される資質が一定水準で確保されていることがうかがえる。また、チームワーク・リーダーシップ（F）はR6で「4」の割合が増加し、「3」以上に集中する傾向が強まっている。自己管理能力（E）についてもR6では極端な低評価が見られず、基礎力の底上げが進んでいるといえる。

一方で、論理的思考力（C）および問題解決力（D）は、R6で「3」に集中する傾向がさらに強まっている。特にR6では「5」がほぼ見られず、高評価層の増加というよりは中間層への収束が特徴である。これは大幅な向上というよりも、「低評価の減少による安定化」と捉えるのが適切である。

総じて、R6はR5と比較して大きな飛躍があった年度というよりも、低評価層が減少し、評価分布が中間～上位層に安定した年度と整理できる。基礎的資質は維持・安定している一方で、思考力や問題解決力における突出した高評価層の育成が今後の課題であると考えられる。

幼児教育学科	R5	R6
A 知識・理解力	3.17	3.32
B 専門技術	3.22	3.18
C 論理的思考力	2.83	3.09
D 問題解決力	2.96	3.14
E 自己管理能力	3.22	3.59
F チームワーク・リーダーシップ	3.48	3.00
G 倫理観	3.52	3.82
H コミュニケーション力	3.52	3.36
総合	3.35	3.36

幼児教育学科におけるR5とR6の平均評価比較では、総合的にはわずかながら向上傾向が見られると評価できる。総合評価は3.35から3.36へと微増しており、大きな変動はないものの、全体水準は維持・安定していることが確認できる。

項目別に見ると、改善が顕著なのは以下の領域である。まず、E 自己管理能力（3.22→3.59）は最も大きく上昇しており、社会人基礎力の安定化・向上が進んでいることがうかがえる。次に、G 倫理観（3.52→3.82）も大きく伸びており、幼児教育分野で特に重視される資質の強化が確認できる。また、C 論理的思考力（2.83→3.09）およびD 問題解決力（2.96→3.14）も上昇しており、実践的判断力や考える力の底上げが進んでいる点は前向きな変化である。さらに、A 知識・理解力（3.17→3.32）も上昇しており、基礎的専門力の定着が進んでいると考えられる。

一方で、F チームワーク・リーダーシップ（3.48→3.00）は比較的大きく低下しており、組織内での協働力や主体的なリーダーシップ発揮については課題が残る結果となっている。また、H コミュニケーション力（3.52→3.36）はやや低下しているが、大きな水準低下ではなく、引き続き安定した評価を維持している。B 専門技術（3.22→3.18）もわずかに低下しているものの、ほぼ横ばいと捉えられる。

総合的に見ると、R6は

- ・ 自己管理能力および倫理観の大幅な向上
- ・ 思考力・問題解決力の底上げ
- ・ 基礎的知識理解の安定化

という点で着実な改善が見られる年度である。一方で、チームワーク・リーダーシップやコミュニケーション

コミュニケーション力の維持・再強化が今後の課題である。全体としては、基礎力と内面的資質の向上が進んでおり、実践力をさらに高める教育の充実により、よりバランスの取れた人材育成につながると考えられる。

V.R6 卒業生アンケートと R6 就職先アンケート調査集計結果比較

R6 卒業生アンケートと R6 就職先アンケートの集計結果を比較すると、立場は異なるものの、実は多くの点で共通した課題意識と期待が見えてきた。

①「実践力を高めたい／高めてほしい」という共通認識

《卒業生の声》

- ・ 排泄介助や部分実習をもっと積極的に行いたかった
- ・ 実習の幅を広げてほしい（特養だけでなく GH など）
- ・ 領域別実習や周術期看護を深めたかった
- ・ 指導案の書き方や子どもとの直接的関わりをもっと経験したかった

《現場の声》

- ・ 基本的介助技術（移乗・排泄など）の確実な習得
- ・ 臨床実習の充実、失敗体験を含めた実践機会の拡充
- ・ 指導案作成力や柔軟な対応力の強化
- ・ 知識を実践に結びつける力の育成

共通点

「知識は学んだが、もっと実践経験がほしかった／必要である」という点で一致している。卒業生は“もっと経験しておけばよかった”と感じ、現場は“入職前に基礎的实践力があると適応が早い”と考えている。このことから、実践型教育のさらなる強化は双方のニーズに合致していると言える。

②コミュニケーション力の重要性

《卒業生の声》

- ・ 利用者との関係形成（ラポール形成）を学びたい
- ・ 子どもとの直接的関わりをもっと深めたい
- ・ 面接練習や表現力向上を望む声

《現場の声》

- ・ 傾聴力、共感力、寄り添う姿勢が最重要
- ・ 患者・家族・保護者対応力
- ・ チーム内コミュニケーション力
- ・ 自ら質問・相談できる姿勢

共通点

どの学科においても「対人関係力」は中核テーマである。卒業生は「もっと関わりの経験を」と求め、現場は「関わる力が基盤」と強調している。このことから、コミュニケーション教育の体系化・実践化は

両者共通の課題であると言える。

③社会人基礎力の必要性

《卒業生の声》

- ・面接対策を授業内で取り入れてほしい
- ・就職活動の情報提供がありがたかった

《現場の声》

- ・報告・連絡・相談の徹底
- ・挨拶・敬語・マナー
- ・時間管理・責任感・主体性
- ・学生と社会人の違いの自覚

共通点

卒業生は“就職活動”という入口での社会人基礎力支援を求め、現場は“入職後の行動”としての社会人基礎力を求めている。このことから、キャリア支援と社会人教育は連続しているテーマであり、両者は一本の線につながっていると言える。

④専門性の深化とアップデート

《卒業生の声》

- ・周術期看護をもっと学びたかった
- ・指導案や文章の書き方を強化したい

《現場の声》

- ・病態生理に基づく思考力
- ・障害特性や認知症理解
- ・発達理解、安全管理、応急処置
- ・根拠に基づくアセスメント力

共通点

「専門知識はあるが、もっと深く・現場で使える形で学びたい」という点で重なっている。このことから、“知識の暗記”から“知識の活用”へという転換が共通課題であると言える。

⑤主体性・自己研鑽姿勢

《卒業生の声》

- ・実習をもっと自分から積極的に行えばよかった

《現場の声》

- ・学び続ける姿勢
- ・自己省察力（PDCA）
- ・主体的に相談できる力

共通点

卒業生自身も「もっと主体的であればよかった」と振り返り、現場も「主体性」を重視している。このことから **“受け身から能動へ”の成長支援が重要である**ことが明確である。

VII.分析者の所感

就職先アンケート調査 94 件（回収率 82.5%）、卒業生アンケート調査 21 件（回収率 17.5%）、全 115 件（回収率 49.1%）の生の声から貴重な情報を入手できたと考えます。一般的なアンケート調査は回収率を 30%目標としている場合が多く、特にオンライン調査では 20%～30%が有効回答率とされていることから、本アンケート調査の目的である『社会のニーズに応えられる人材の育成と輩出を図り、今後の本学の教育サービスの充実と改善につなげる、調査結果を踏まえた教育改革・改善』のために有効に活用することが望まれます。

今回のアンケート結果を拝見し、まず率直に感じましたのは、現場の皆さまが本学の卒業生に対して大きな期待を寄せてくださっているということです。厳しいご指摘の中にも「育てたい」「これからも採用したい」という温かなメッセージが随所に見られました。加えて、卒業生アンケートを重ねて読み解くと、現場と卒業生の声が決して対立しているのではなく、同じ方向を向いていることが明確になりました。

まず顕著であったのは、「実践力を高めたい／高めてほしい」という共通認識です。卒業生からは「排せ介助をもっと積極的に経験したかった」「領域別実習や周術期看護を深めたかった」「指導案作成や子どもとの直接的関わりをもっと経験したかった」といった声が挙がっています。一方、現場からも「基本的介助技術の確実な習得」「臨床実習の充実」「知識を実践に結びつける力の育成」が求められています。つまり、双方が「知識は学んだが、もっと実践経験が必要である」と感じている点で一致しております。このことから、**実践型教育のさらなる強化は、卒業生と現場双方のニーズに合致**していると考えます。

次に、「コミュニケーション力の重要性」です。卒業生は「利用者との関係形成をもっと学びたい」「子どもとの関わりを深めたい」と振り返り、現場は「傾聴力・共感力・寄り添う姿勢が最重要」と明確に示しています。どの学科においても、対人関係力が職業人としての基盤であることは共通しています。特に福祉分野では、相手を思いやり安心感を与える人間性が重視されており、看護分野では患者・家族対応力、保育分野では子ども・保護者対応力が求められています。コミュニケーション教育を体系的かつ実践的に強化することは、全学科共通の課題であると感じております。

さらに、「社会人基礎力」の必要性も、両アンケートを通して明確に浮かび上がりました。卒業生は面接対策や就職支援の充実を望み、現場は報告・連絡・相談、時間管理、挨拶・敬語といった基本行動の徹底を求めています。入口としてのキャリア支援と、入職後に求められる社会人基礎力は一本の線につながっており、切り離せるものではありません。社会人としての基礎を在学中からどのように体得させるかが、今後の重要テーマであると考えます。

専門性の深化についても共通点が見られます。卒業生は「周術期看護をもっと学びたかった」「文章作成や指導案作成を強化したい」と振り返り、現場は「病態生理に基づく思考力」「根拠に基づくアセスメント力」「発達理解や安全管理の徹底」を求めています。これは単なる知識量の問題ではなく、“知識をどう活用するか”という段階への転換が必要であることを示しています。暗記型から応用型へ、理論から統

合的思考へと進化させる教育設計が求められていると感じます。

また、主体性に関しても一致した傾向が見られました。卒業生自身が「もっと積極的に実習に取り組みばよかった」と振り返る一方で、現場は「学び続ける姿勢」「自己省察力」「主体的に相談できる力」を重視しています。ここから見えるのは、“受け身から能動へ”の成長支援の必要性です。実習日誌での目標設定や振り返りを通じて PDCA を回す習慣づくりは、まさにこの主体性を育む具体的な手立てであると考えます。

社会福祉学科においては、社会人基礎力と実践力の両立が特に強く求められております。ICT 活用力や記録力といった現場のデジタル化対応も含め、基礎的な業務遂行能力の底上げが重要です。同時に、「相手を思いやり、安心感を与える力」は AI には代替できない価値であり、今後ますます重要になると考えます。

看護学科では倫理観の高さや BLS の実践力が高く評価されている一方で、根拠に基づく統合的思考力の強化が求められています。専門知識と判断力の接続が今後の鍵となると思われます。

幼児教育分野では、ピアノ演奏や文章力といった基礎技能に加え、現代の現場に即した教育内容への更新が求められています。同時に、成長力の高い卒業生への評価も多く、育成の方向性は間違っていないと感じます。

総じて、両アンケートを通して見えてきた共通テーマは以下の通りです。

- ・実践型教育のさらなる充実
- ・コミュニケーション力の体系的育成
- ・社会人基礎力の徹底と WHY の理解
- ・知識を活用できる思考力への転換
- ・主体性を引き出す教育設計

AI や自動化が進む時代だからこそ、倫理観、礼儀、対面での配慮、自分の言葉で考える力といった人間的スキルの価値は一層高まります。人材育成は一過性の取り組みではなく、時間をかけて育まれるものです。在学中の教育と卒後の成長を一本の線で捉え、現場の皆さまと協働しながら伴走していく姿勢が、これからの教育に求められているのではないかと感じております。

本報告書と令和 6 年度卒業生アンケート調査集計結果報告書を共に考察頂くことで、本アンケート調査の目的である「社会のニーズに応じた人材を育成・輩出し、これを基にした教育サービスの充実と改善を図ること」が可能となり、卒業生の満足度に加え、就職先からの評価を向上させることができると考えます。

文責 キャリアコンサルタント 新田 ゆかり

VIII. 就職先アンケート調査表

1. 対象者の評価をお聞かせ下さい。(A～Hについて5段階評価)

評価項目(内容説明)		評価欄
		優秀⇔普通⇔劣る
A	知識・理解力 知識を順序だてて理解し、学んだ知識をつないでいくことができる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
B	専門技術 社会貢献・自己実現に専門技術を活用できる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
C	論理的思考力 情報や知識を多角的、論理的に分析し、表現できる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
D	問題解決力 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
E	自己管理能力 自らを律して行動できる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
F	チームワーク・リーダーシップ 他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。	5 - 4 - 3 - 2 - 1
G	倫理観 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。	5 - 4 - 3 - 2 - 1
H	コミュニケーション力 言語や身体を用いて自己や他社の理解を深めるコミュニケーションができる。	5 - 4 - 3 - 2 - 1
総合評価 →		5 - 4 - 3 - 2 - 1

2. 本学卒業生に関わらず、貴施設・会社が新入職員に対して最も重視するもの順に3つお聞かせください。(上記 設問1 の評価項目 A～H の記号でお選び頂き () 内に記入して下さい)

第1位 () 第2位 () 第3位 ()

3. 本学卒業生に関わらず、貴施設・会社が新入職員に対して足りないと感じていること、入職前に身につけておいてほしいことを教えてください。

4. 新入職員の専門知識・技術として不足しているものがあればその内容をお聞かせ下さい。

5. その他、本学の教育に対するご指摘、ご要望などございましたらご自由にご記入下さい。

ご協力ありがとうございました。